

YAMAGATA International Documentary Film Festival 2017



平成29年度 事業報告

認定NPO法人

山形国際ドキュメンタリー映画祭2017

10月5日[木] - 12日[木] October 5-12

会場：山形市中央公民館(アズ7丁目)、山形市民会館、フォーラム山形、山形美術館、KUGURUほか

インターナショナル・コンペティション、アジア千波万波、
アフリカを/から観る、フレディ・ムラー-特集、政治と映画：パレスティナ・レバノン70s-80s、
日本プログラム、ヤマガタ・ラフカット!、ともにある Cinema with Us、やまがたと映画ほか

主催：認定NPO法人 山形国際ドキュメンタリー映画祭

共催：山形市

助成：芸術文化振興基金、J-LOP4

特別協賛：映像工業株式会社

協力：担保ジャパン 日本舞臺「SOMPOアート・ファンド」(企業メセナ協議会 2021 Arts Fund)、国際交流基金アジアセンター

Venues: Yamagata Central Public Hall (AZ Nanoka-machi), Yamagata Citizens' Hall,
Forum Yamagata, Yamagata Museum of Art, KUGURU and more

International Competition, New Asian Currents,
Africa Views, Retrospective of the films of Ferezi Murer,
Politics and Film: Palestine and Lebanon 70s-80s, Perspectives Japan,
Yamagata Rough Cut!, Cinema with Us, Yamagata and Film and more

Presented by YAMAGATA International Documentary Film Festival (NPO)

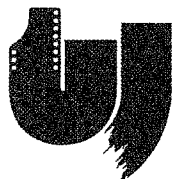
Co-presented by Yamagata City

Supported by Japan Arts Council Subsidized by J-LOP4

Special Support: EIKI INDUSTRIAL CO., LTD

In Cooperation with Sompo Japan Nipponkai Insurance Inc (SOMPO ART FUND) (Association for Corporate
Support of the Arts, Japan: 2021 Fund for Creation of Society by the Arts and Culture), The Japan Foundation Asia Center

後援：一般社団法人日本映画制作者連盟、公益社団法人映画文化振興会、公益財団法人川喜多記念映画文化財団、一般社団法人外国映画輸入配給協会、協同組合日本映画監督協会、山形県、山形県教育委員会、
山形市教育委員会、山形県工業会、山形県芸術文化協会、山形市芸術文化協会、東北芸術工科大学、山形大学、一般財団法人山形コンベンションビューロー、山形県舞台芸術振興会、朝日新聞山形支社、
河北新報社、一般社団法人共同通信山形支社、産経新聞山形支社、時事通信山形支社、日本経済新聞山形支社、毎日新聞山形支社、読売新聞東北本社山形支社、山形新聞-山形放送、NHK山形放送局、
さくらんぼテレビ、株式会社テレビユー山形、株式会社山形テレビ、株式会社エフエム山形、山形FM1、エフエム放送株式会社



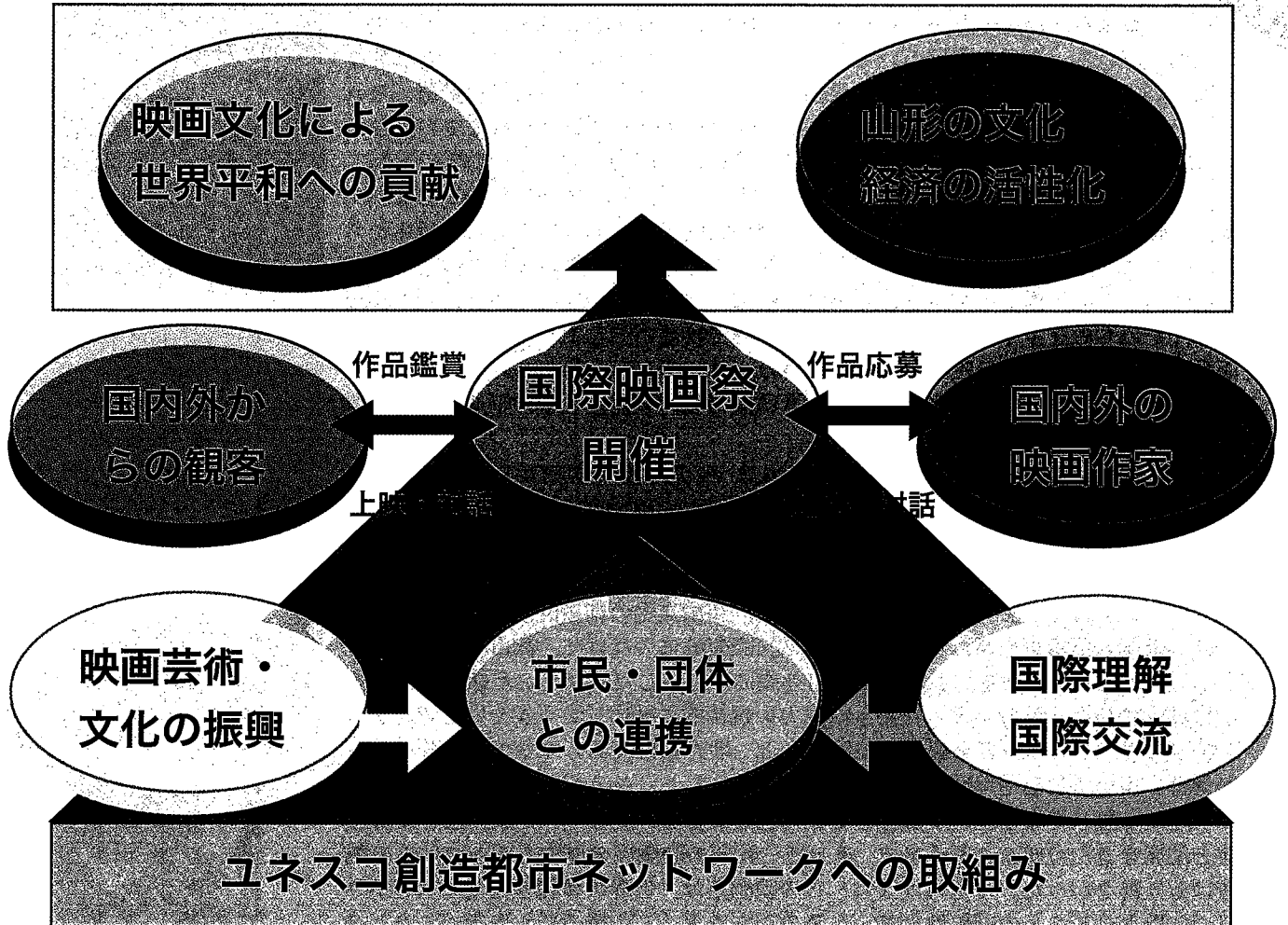
www.yidff.jp

目次

YIDFF が掲げるミッション	3
平成29年度の総括	4
会議開催状況	5
[1] 山形国際ドキュメンタリー映画祭 2017開催	6
[2] 映像文化推進事業	42
[3] 上映会・鑑賞会推進事業	43
[4] フィルムライブラリー活用・作品貸出事業	49
[5] ネットワーク構築事業	52
[6] 「311 ドキュメンタリーフィルム・アーカイブ」事業	53
[7] 映像文化創造都市推進活動	54
[8] 映像（撮影・上映）素材デジタル化に伴う研究活動への協力	55
[9] 山形ドキュメンタリー・フィルムライブラリー管理業務	56
[10] 正会員・賛助会員の拡大	57
[11] 寄付募集活動	58
付録	59

認定NPO法人 山形国際ドキュメンタリー映画祭が掲げるミッション

認定NPO法人 山形国際ドキュメンタリー映画祭は、ドキュメンタリー映画に焦点をあてた国際映画祭の開催を主体として、映画芸術・文化、国際理解・国際交流に関する、市民と協働した様々な文化活動に取り組んでいます。



山形国際ドキュメンタリー映画祭のミッションは——

山形国際ドキュメンタリー映画祭の開催を通じて、国際理解や交流を深め、世界の平和に貢献する。また、山形においては映画祭を開かれた窓として、世界の今を知り、自己や都市（地域）のあり方を研いてゆくと共に、山形の文化・経済の活性化に寄与する。

事業方針

- (1) 山形国際ドキュメンタリー映画祭は、時代を映す鏡であるドキュメンタリー映画を世界中から集め、山形市民、県民をはじめ日本全国や世界各国から参加される方々と優れた映像文化を共有し、ディスカッションやシンポジウム等を通じたより深い国際理解と国際交流を促進します。
- (2) 映画祭の開催を通して、山形の物産や風土を国内外に紹介するなど、様々な情報を発信します。
- (3) 東日本大震災関連作品を含め、世界中から集められた映像をライブラリーに保存し、鑑賞の機会を設け、継続的な共有を行います。
- (4) 映画・映像による生涯教育活動を推進します。特に若年層に対しては、ワークショップなどの開催を通して、豊かな情操教育活動に寄与します。

総括：映画祭の存在を支える、山形の新たな街づくりへ

山形市制施行100周年の記念事業として1989年からスタートした山形国際ドキュメンタリー映画祭。2017年10月、第15回目の開催を無事終了することができました。地方都市山形に約30年前に誕生した国際映画祭が決して短くはない歴史を刻むことができたこと、そして年々世界的な評価を高めながら、開催の度に映画祭として、また国際的文化事業として新しい課題にチャレンジして来られたことを振り返り、ある種の驚きと強い感慨を覚えます。これは、代々の運営関係者の努力のバトンタッチの賜物でありつつ、それのみでは映画祭の存続の歴史は語れません。国内外からの参加者がいる、世界中の映画作家たちがいる、市民や県民がいる。多くのボランティアの方々、協力を惜しまなかった地元企業や様々な団体、山形市の意思や途切れることのなかった財政措置、それを是とした山形市議会。希少なドキュメンタリー映画祭に価値を見出し育ててくださった方々の総体たるや計り知れず、感謝というシンプルな言葉に思いを込めて向き合うことこそ、この歴史に最も相応しい態度だと感じます。こうした映画祭の歴史に加味される、新しい魅力や力強さを予感させたのは、今回の映画祭での地元や近隣の高校生たちによるボランティア活動でした。高い専門性と国際性を備える先端の国際映画祭の現場で若い世代が自らの意思で生き生きと活躍する姿は、彼らの可能性と重ねて、この映画祭の可能性そのものを多くの参加者に印象付けたのではないのでしょうか。そして、こうした活動が今後も続き、受け継がれてゆくためのサポートこそ、我々の大事なミッションと心得ます。そんな意味や感慨を踏まえ、第15回の映画祭開催こそが平成29年度の第一の収穫と言えます。

そしてもう一つ大きな縁りがありました。これまでの映画祭の歴史から生まれてなお新しい広がりや内包した、これも未来に繋がる収穫です。2013年から当映画祭が提唱し続けてきた映像文化創造都市というビジョンが山形市や地元文化団体や大学等との連携によって具体性を帯び、平成29年10月31日、山形市は映画部門においてユネスコ創造都市ネットワーク加盟認定を得ることができました。芸術文化の創造的活動や人材交流を地域資産の価値の再構築や新たなチャンネルの国際交流につなげて、都市や農村のアイデンティティに磨きをかけること。この認定を機に、そうしたビジョンが様々な業種や分野に自覚的に共有されるよう、今後も、強力で継続的に推進してゆきたいと考えます。国が地方創生という言葉を使う遥か以前から、地方都市はあらゆる工夫を凝らし様々な分野や現場で生活や地域作りに取り組んできました。そうした営々たる努力を肯定しつつ違った観点で磨き直す手法として「創造都市」というアイデアが、様々な新しい交流と創発を育ててゆくと考えます。そして、30年の映画祭の歴史なくしてはこの創造都市はあり得なかった。であればなお、この映画祭は、世界の多様性を見つめ世界からも見つめ返されることの関係性に加え、その存在を支える山形の新たな街づくりへの積極的な参加によって磨かれる生な感覚を大事にしてゆきたいと考えます。そうした関係性の中で多様な人々と多様な映像文化を共有することの今日的な意味を考え、感じ合えることを、この映画祭の中心に据え続けたいと思います。それが、国際映画祭の真価と展望を見つめ続けてくれる社会的な裾野を広げることにつながってゆくでしょう。

この映画祭の運営をNPO法人として山形市から受け継ぎ、12年が経ちます。第10回から15回目まで、暗中模索しつつ計6回の映画祭を開催する中で思い続けてきたことが一つあります。今が常に折り返し地点だということです。20年続いた映画祭ならばあと20年やれる。30年重ねてきた映画祭ならばこれからさらに30年続けるべきだと。時代や社会の変化、都度都度の不測の状況の中で国際的な場を保ち続けることで培われた方法や連携や意思を養分として、この世界の此の地にしっかりと根を張り続けることが、山形の新しい現実を創造してゆくことになると考えています。映画祭は映画祭の歴史だけを作り出している訳ではなかった。山形国際ドキュメンタリー映画祭 2017とそれまでの道のりを振り返り、そんな感慨を持っています。

認定NPO法人 山形国際ドキュメンタリー映画祭 事務局長 高橋卓也



国内外から多数のゲスト、観客が訪れた



山形交響楽団によるオープニング演奏



記念すべき15回目の開催



今年もボランティアさん大活躍



映画が主食、「ばくー」も出沒



華々しい開會式



フィルム映写もまだまだ健在

総会

□平成29年5月20日 平成29年度総会（山形市総合福祉センター3階 会議研修室1）

主要議題：平成28年度事業報告・収支決算・財産目録、監査報告、平成29年度事業計画（案）・収支予算（案）、他

理事会

□平成29年4月20日 第118回理事会（山形まなび館 交流ルーム）

主要議題：平成28年度3月決算（見込）・映像文化推進事業決算（見込）、平成28年度事業報告
平成28年度監査依頼及び監査資料、映画祭2017ポスター製作、他

□平成29年5月11日 第119回理事会（山形まなび館 交流ルーム）

主要議題：平成29年度総会議案書、平成29年度総会役割とスケジュール、他

□平成29年6月27日 第120回理事会（山形まなび館 交流ルーム）

主要議題：平成29年度4月・5月収支決算、映像文化推進事業決算、映画祭2017開催告知ポスター、映画祭2017インター
ナショナルコンペティション上映作品、記者会見（6/29）、他

□平成29年7月25日 第121回理事会（山形市総合福祉センター 会議研修室2）

主要議題：平成29年度6月収支決算、映像文化推進事業決算、アジア千波万波上映作品、映画祭事務局職員正式雇用、他

□平成29年8月24日 第122回理事会（丹六ビル3階、デイリー・ニュース編集室）

主要議題：平成29年度7月収支決算、平成29年度第一次補正予算（案）、映画祭2017レセプション概要、他

□平成29年9月15日 第123回理事会（丹六ビル3階 デイリー・ニュース編集室）

主要議題：平成29年度8月収支決算、映画祭2017レセプションスケジュールと理事の役割等（再確認）、Jアラート対応他

□平成29年11月22日 第124回理事会（山形まなび館 交流ルーム）

主要議題：平成29年度9・10月収支決算、映画祭2019日程等、認定NPO法人としての寄付獲得、コミュニティシネマ全国
会議、山形市ユネスコ創造都市ネットワーク加盟、映画祭2017報告、コンペ作品の契約状況、他

□平成29年12月21日 第125回理事会（金魚）

主要議題：平成29年度11月収支決算、平成29年度第2次補正予算（案）、予算執行状況と今後の課題、収入獲得、コミュ
ニティシネマ全国会議、他

□平成30年1月25日 第126回理事会（山形まなび館 交流ルーム）

主要議題：平成29年度12月収支決算、映画祭2019作品募集ポスター製作方針、山形・東京事務局合同会議、コミュニティ
シネマ全国会議、他

□平成30年2月21日 第127回理事会（山形まなび館 交流ルーム）

主要議題：平成29年度1月収支決算、YIDFF 2019オンラインによる応募作品データ取得のためのシステム導入、他

□平成30年3月27日 第128回理事会（山形まなび館 交流ルーム）

主要議題：平成29年度2月収支決算、平成29年度第3次補正予算（案）、平成30年度事務局体制、平成30年度事業計画
（案）・予算（案）、平成30年度暫定予算執行、平成30年度通常総会に向けたスケジュール、他

開催概要

 **山形国際ドキュメンタリー映画祭2017**
YAMAGATA International Documentary Film Festival
10月5日[木]～12日[木] October 5-12

期間：平成29年10月5日 [木] から10月12日 [木]

会場：山形市中央公民館（アズ七日町）、山形市民会館、フォーラム山形、山形美術館、KUGURU ほか

主催：認定NPO法人 山形国際ドキュメンタリー映画祭

共催：山形市

助成：芸術文化振興基金、J-LOP4

特別協賛：映機工業株式会社

協力：国際交流基金アジアセンター、損保ジャパン日本興亜「SOMPO アート・ファンド」

企業メセナ協議会GB Fund、公益財団法人カメイ社会教育振興財団、

公益信託荘内銀行ふるさと創造基金、山形大学人文学部附属映像文化研究所

YIDFF 2017 の成果

次代を担う若い世代が参加すべき価値ある国際映画祭

山形国際ドキュメンタリー映画祭 2017には、インターナショナル・コンペティション部門で1,146本、アジア千波万波部門に645本、合計1,791本、例年通り多くの作品の応募があった。国際的なドキュメンタリー映画祭が増える傾向にある中、安定的な応募作品数は当映画祭に寄せる期待や注目が高いことを示している。特に、ドキュメンタリー映画の世界的巨匠と言われる作家たちの作品が数々寄せられていることは非常に喜ばしいことであり、当映画祭30年の歴史が、世界の作り手の方々の信頼に裏打ちされたものであることを物語っていると言えるだろう。今回もこの膨大な新作ドキュメンタリー作品群から、真摯な視聴と選考を経て厳選された作品の数々は世界の一流の質を備えつつ、世界の多面性と表現芸術の多様性を見る者にしっかりと伝えてくれた。

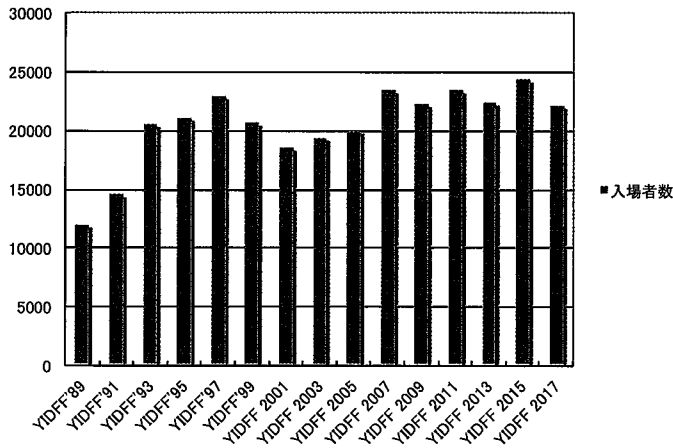
また今回も22,000人を超える来場者があった。全国の芸術系の大学から教員や学生による団体鑑賞参加が増えており、当映画祭が授業として正式に位置づけられ、次代を担う若い世代が参加すべき価値ある国際映画祭という認識が定着しつつあるのは嬉しいことである。表現の多様性や可能性を備えたドキュメンタリー映画であるからこそ、若い世代が出会いたい芸術としても捉えられているのを感じる。また、地元山形県内の参加観客の膨らみも見逃せない。準備年も含め山形で取り組まれている多様な映像文化活動が、普段ドキュメンタリー映画に自覚的に接しない市民や観客も含めて、2年に一度の国際映画祭に参加する要因となっている。日本で一番ドキュメンタリー映画が上映される山形の市民県民は常に当映画祭の膨大な潜在的観客として控えており、当映画祭は上映プログラムや広報においても意識的な工夫を行なっている。特に今回、映画祭事務局の働きかけにより市内近隣の高校生約70人が映画祭期間中、ボランティアとして各会場で目覚ましい活躍を見せてくれた。世界最先端の映画祭であり国際交流の現場に若い世代がいることの意義は大きい。本人にとっては貴重な体験の場であるのはもちろんだが、映画祭運営に関わるスタッフや他のボランティアたちに新しい役割と活力を与えたことは間違いない。そして国内外の参加者たちは当映画祭の良質な独自性を印象として刻んだのではないかと考える。今後は、映画祭を支えてくださる幅広い年代の方々が、観客層にも同様に反映するよう働きかける必要がある。

今回の映画祭においても、地元との連携により、多様な参加者に映画祭はもちろん山形滞在那のものを楽しんでいただく工夫を数多く行なった。開閉会式典での手話通訳、山寺ツアー（中学生による英語ガイド付）、上映会場での朝ヨガ、山形産の果物と酒文化を紹介する山形カクテルBAR、福祉作業所等によるパンの出張販売等、レセプションでの県産組合の蕎麦打ち実演とお振る舞いや裏千家山形支部によるお点前実演とお振る舞い、そして山形舞子の演舞、山形交響楽団の映画祭オープニング演奏、山形市観光ボランティアガイド協会の観光案内など、香味庵クラブほか市内飲食店での交流の活性化など、県外・国外の多くの方々に喜んでいただけたと実感している。また、映画祭参加監督を県内各地域や学校へ派遣する交流事業は、今回はクラウドファンディングを通じて多くの方々からのご支援によって実施できたこと、心から感謝申し上げます。このように、映画祭参加を機に山形ファンやリピーターや山形発信者が増える多様な工夫を、まさに街ぐるみの取り組みとして今後も積極的に行なっていきたい。

山形国際ドキュメンタリー映画祭 2017 開催結果

入場者数 22,089人 (前回比 90.9%)

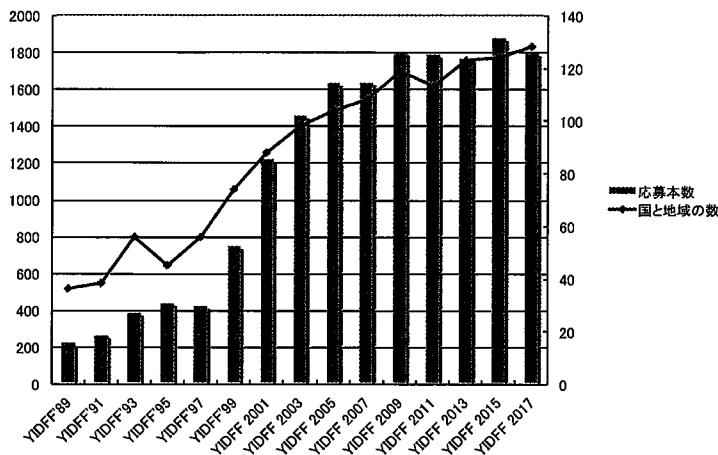
入場者数



開会式、いよいよ映画祭の幕開け

	YIDFF'89	YIDFF'91	YIDFF'93	YIDFF'95	YIDFF'97	YIDFF'99	YIDFF2001	YIDFF2003
入場者数	11,920	14,436	20,509	21,023	22,875	20,600	18,490	19,333
	YIDFF2005	YIDFF2007	YIDFF2009	YIDFF2011	YIDFF2013	YIDFF2015	YIDFF2017	
入場者数	19,963	23,387	22,195	23,373	22,353	24,290	22,089	

応募本数 1,791本 128の国と地域から



いつも長蛇の列ができるコンペティション会場

	YIDFF'89	YIDFF'91	YIDFF'93	YIDFF'95	YIDFF'97	YIDFF'99	YIDFF2001	YIDFF2003
応募本数	221	260	331	436	420	745	1,218	1,454
国と地域の数	36	38	56	45	56	74	83	98
	YIDFF2005	YIDFF2007	YIDFF2009	YIDFF2011	YIDFF2013	YIDFF2015	YIDFF2017	
応募本数	1,623	1,633	1,796	1,783	1,761	1,874	1,791	
国と地域の数	104	108	119	113	123	124	128	

YIDFF 2017 応募国分布図

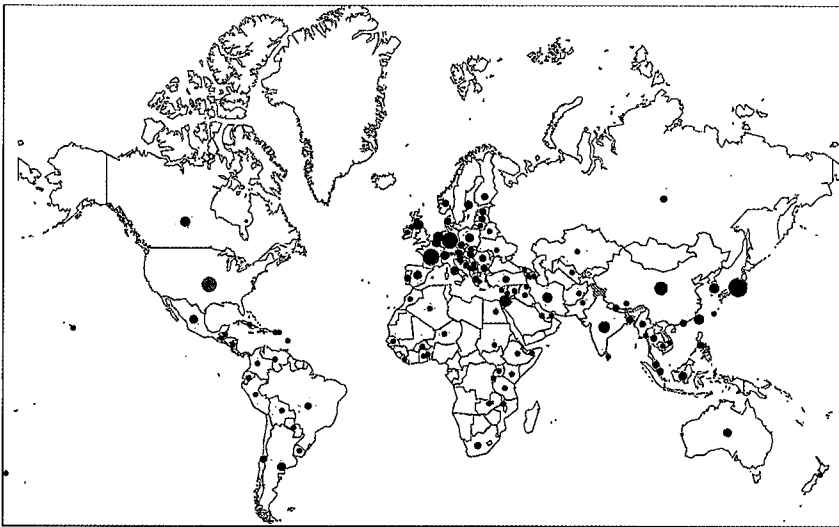


YIDFF 2017 国別の作品応募状況

	コンペ	アジア	計		コンペ	アジア	計		コンペ	アジア	計
日本	88	217	305	バングラディッシュ	1	9	10	モルドヴァ	2	0	2
ドイツ	146	14	160	スロヴァキア	7	1	8	リトアニア	2	0	2
フランス	119	10	129	カシボシヤ	5	2	7	ルクセンブルグ	2	0	2
アメリカ	99	22	121	クロアチア	7	0	7	アゼルバイジャン	0	1	1
英国	38	69	107	シリア	5	2	7	アゾール諸島	1	0	1
韓国	19	72	91	ルーマニア	7	0	7	アンゴラ	1	0	1
インド	18	68	86	アラブ首長国連邦	6	0	6	イスラエル	1	0	1
台湾	17	66	83	エジプト	6	0	6	ウズベキスタン	0	1	1
スペイン	81	0	81	エストニア	5	1	6	カザフスタン	1	0	1
イタリア	69	4	73	カザフスタン	5	1	6	ガンビア	1	0	1
イラン	26	36	62	パキスタン	2	4	6	キュラゾ島	1	0	1
ベルギー	52	7	59	パレスティナ	5	1	6	クウェート	1	0	1
スイス	49	1	50	ボスニアヘルツェゴビナ	4	2	6	クルディスタン	0	1	1
カナダ	45	4	49	セルビア	5	0	5	ケニア	1	0	1
オランダ	42	2	44	エストニア	5	1	6	ヨルダン	1	0	1
イギリス	33	4	37	ベトナム	2	3	5	コンゴ	1	0	1
イスラエル	34	3	37	南アフリカ	5	0	5	サモア	1	0	1
メキシコ	35	2	37	アイスランド	4	0	4	シリア・クルド	0	1	1
アルゼンチン	33	0	33	アイルランド	4	0	4	スリランカ	1	0	1
オーストリア	31	1	32	フィリピン	4	0	4	セントルシア	0	1	1
スイスランド	25	2	27	フィンランド	4	0	4	チベット	0	1	1
ノルウェー	25	0	25	コロンビア	3	1	4	チャド	1	0	1
デンマーク	23	1	24	ブルガリア	4	0	4	ドミニカ共和国	1	0	1
レバノン	16	8	24	ラトヴィア	4	0	4	ナンビア	1	0	1
香港	5	18	23	ラオス	3	0	3	ニジニル	1	0	1
ポーランド	21	1	22	エチオピア	3	0	3	ハイチ	1	0	1
ミャンマー	2	20	22	ギニア	2	1	3	パラグアイ	1	0	1
フィリピン	10	11	21	ジョージア (グルジア)	3	0	3	ハワイ	1	0	1
スウェーデン	17	2	19	スロヴェニア	3	0	3	フランス領ポリネシア	1	0	1
ブラジル	19	0	19	チェコ	2	1	3	ベネズエラ	1	0	1
タイ	4	14	18	ドミニカ	3	0	3	バラルーシ	1	0	1
ギリシャ	15	2	17	ペルー	3	0	3	ボリネシア	1	0	1
ポルトガル	13	4	17	ボリビア	3	0	3	マダガスカル	1	0	1
インドネシア	4	12	16	マレーシア	1	2	3	モリシャス	1	0	1
ロシア	14	1	15	ブルガリア	2	1	3	北朝鮮	0	1	1
ウクライナ	14	0	14	アルメニア	2	0	2	北朝鮮	0	1	1
シンガポール	1	13	14	ラトヴィア	2	0	2	北朝鮮	0	1	1
チェコ	13	1	14	ウラルグアイ	2	0	2	北朝鮮	0	1	1
カタール	11	2	13	エストニア	2	0	2	北朝鮮	0	1	1
オーストラリア	11	1	12	グアテマラ	2	0	2	北朝鮮	0	1	1
トルコ	10	2	12	セネガル	2	0	2	北朝鮮	0	1	1
ネパール	3	8	11	ナイジェリア	2	0	2	北朝鮮	0	1	1
ハンガリー	5	5	10	ニュージーランド	0	2	2	北朝鮮	0	1	1
				モザンビーク	2	0	2	北朝鮮	0	1	1

応募総数：1,791作品
128の国と地域から

YIDFF 2009 応募国分布図



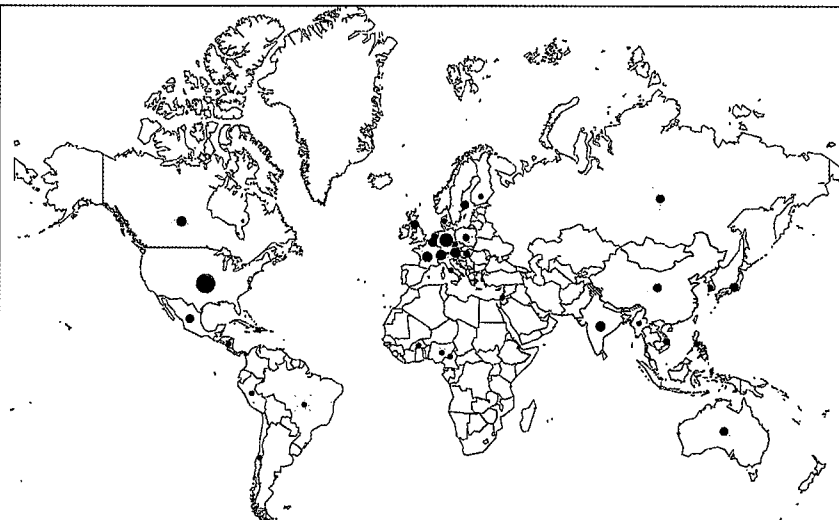
応募総数：1,796作品
119の国と地域から

YIDFF '99 応募国分布図



応募総数：745作品
74の国と地域から

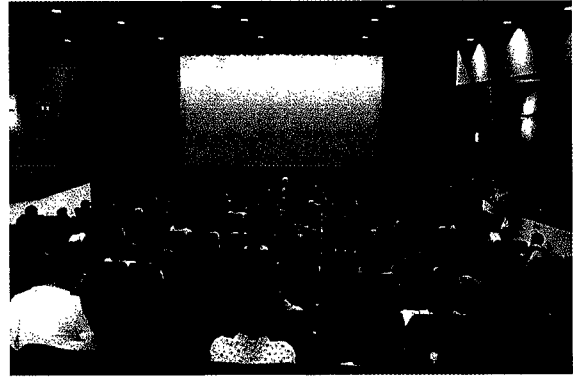
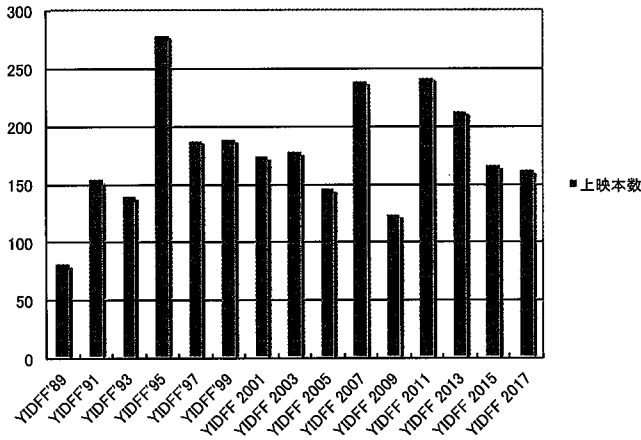
YIDFF '89 応募国分布図



応募総数：221作品
36の国と地域から

上映本数 161本 (前回比 97.6%)

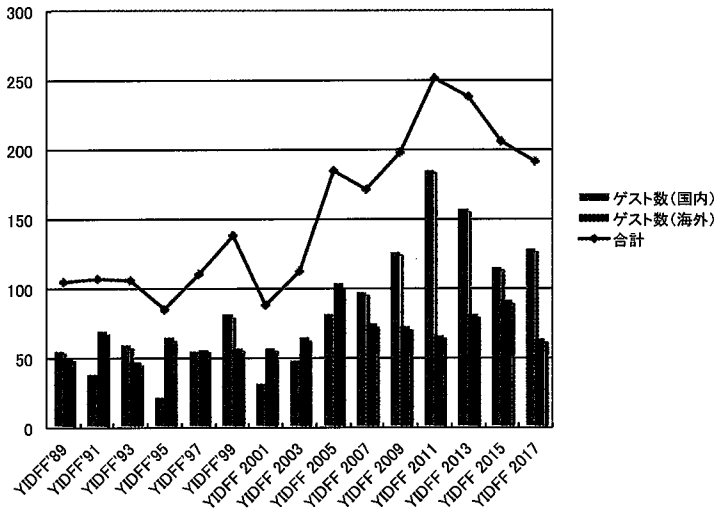
上映本数



監督との質疑応答の時間も映画祭の楽しみのひとつ

	YIDFF'89	YIDFF'91	YIDFF'93	YIDFF'95	YIDFF'97	YIDFF'99	YIDFF2001	YIDFF2003
上映本数	80	153	139	273	187	188	173	177
	YIDFF2005	YIDFF2007	YIDFF2009	YIDFF2011	YIDFF2013	YIDFF2015	YIDFF2017	
上映本数	145	233	123	241	212	165	161	

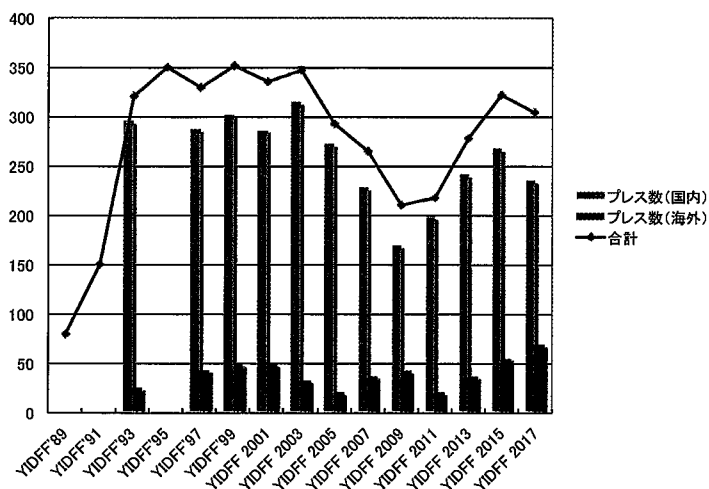
ゲスト数 191人 (前回比 92.7%)



今回も国内外から多数のゲストが来形した

	YIDFF'89	YIDFF'91	YIDFF'93	YIDFF'95	YIDFF'97	YIDFF'99	YIDFF2001	YIDFF2003
ゲスト数 (国内)	55	38	59	21	54	81	31	48
ゲスト数 (海外)	50	69	47	64	56	57	57	64
合計	105	107	106	85	110	138	88	112
	YIDFF2005	YIDFF2007	YIDFF2009	YIDFF2011	YIDFF2013	YIDFF2015	YIDFF2017	
ゲスト数 (国内)	81	97	126	135	157	115	123	
ゲスト数 (海外)	103	74	72	66	81	91	63	
合計	184	171	198	201	238	206	191	

プレス数 304人 (前回比 94.4%)

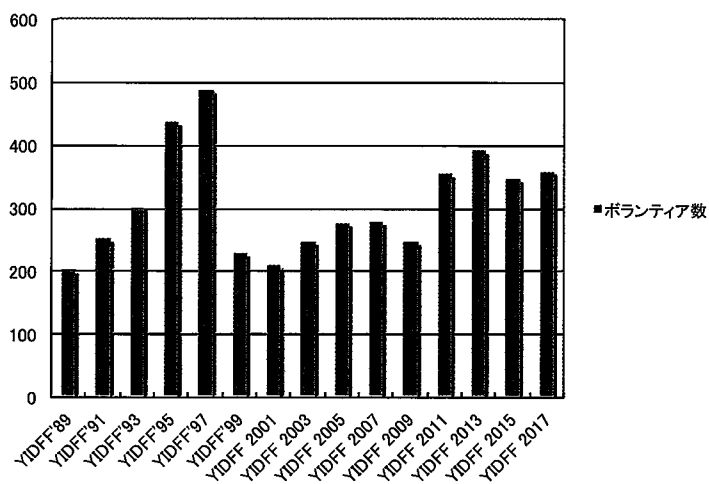


プレスデスクでの対応の様子

	YIDFF'89	YIDFF'91	YIDFF'93	YIDFF'95	YIDFF'97	YIDFF'99	YIDFF2001	YIDFF2003
プレス数 (国内)	内訳データ無	内訳データ無	295	内訳データ無	287	302	286	314
プレス数 (海外)	内訳データ無	内訳データ無	25	内訳データ無	43	49	49	33
合計	80	150	320	350	330	351	335	347
	YIDFF2005	YIDFF2007	YIDFF2009	YIDFF2011	YIDFF2013	YIDFF2015	YIDFF2017	
プレス数 (国内)	272	228	169	198	241	267	235	
プレス数 (海外)	20	37	42	20	37	55	69	
合計	292	265	211	218	278	322	304	

参加ボランティア数 358人 (前回比 103.5%)

ボランティア数



様々なスタイルでボランティアさんが大活躍

	YIDFF'89	YIDFF'91	YIDFF'93	YIDFF'95	YIDFF'97	YIDFF'99	YIDFF2001	YIDFF2003
ボランティア数	200	250	300	435	437	227	208	246
	YIDFF2005	YIDFF2007	YIDFF2009	YIDFF2011	YIDFF2013	YIDFF2015	YIDFF2017	
ボランティア数	275	277	246	353	390	346	358	

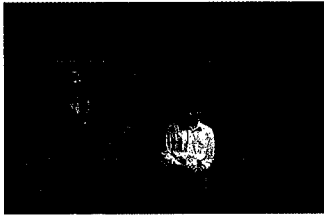
①国際・コンペティション

応募本数 **1,146本** **121の国と地域から** [YIDFF 2015 : 1,196本 116の国と地域から]

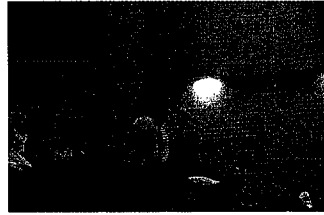
会場：山形市中央公民館（アズ七日町）、山形市民会館大ホール

上映作品数：**15作品** 入場者数：**8,086人（前回比89.0%）**

■山形映画祭第1回目からのプログラム。世界中から長編を対象に募集し、応募された中から厳選。バラエティに富む世界の最先端の表現が凝縮した珠玉の15作品を上映。



『機械』監督質疑応答



観客から熱のこもったコメントも



『ドンキー・ホーテ』監督質疑応答



質疑応答の延長戦、サロントーク

②アジア千波万波

応募本数 **645本** **63の国と地域から** [YIDFF 2015 : 678本 59の国と地域から]

会場：フォーラム山形 5番館 3番館

上映作品数：**23作品（特別招待含む）** 入場者数：**5,115人（前回比134.8%）**

■山形に所縁の深い作家から初参加の作家まで、幅広く集った今年のアジア千波万波。新進気鋭の作家陣による、エネルギーとパッションに満ちあふれた全世界注目の21作品と特別招待2作品を上映。



例年に増して大盛況だったアジア



『翡翠之城』ミディ・ジー監督



和やかな雰囲気質疑応答



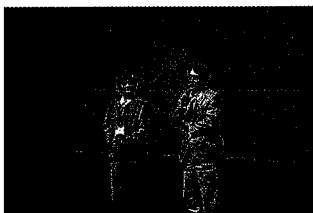
『乱世備忘—僕らの雨傘運動』陳梓桓監督

③-1 特別招待作品

会場：山形市中央公民館（アズ七日町）、山形市民会館大ホール、小ホール

上映作品数：**13作品** 入場者数：**1,421人（前回比375.9%）**

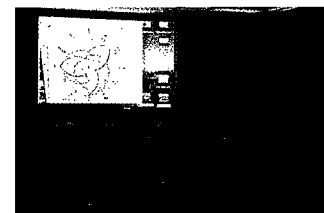
■巨匠監督の名作や注目すべき最新作を一挙に上映。



クロージング上映『表現に力ありや』



『盗まれたロダン』バレンスエラ監督



松本俊夫作品の興味深い考察



熱心な質問が飛び交った松本俊夫短編集

③-2 審査員作品

会場：山形市中央公民館（アズ七日町）、山形市民会館大ホール、フォーラム山形 5番館

上映作品数：**7作品** 入場者数：**954人（前回比96.2%）**

■国際・コンペティション、アジア千波万波の国際審査員の最新作、名作を上映。

④スペシャル・プログラム

日本プログラム

会場：フォーラム山形 4番館

上映作品数：6作品 入場者数：831人

■日本のドキュメンタリー作品の様々な試みを世界に向けて紹介するプログラム。型にとらわれず、深い思索とみずみずしい躍動を感じさせる6作品を上映した。日本作品の海外展開を促進するJ-LOP4補助を受けて英語字幕作成を行い、海外批評家や映画祭、配給などに積極的に紹介した。



連日満席となった日本プログラム会場



8mm上映は特殊なライブ映写だった



『後ろに振り向け』『幽霊』質疑応答



日本プロは海外からの注目度も高い

アフリカを／から観る

会場：山形美術館 展示室1

上映作品数：22作品 入場者数：1,358人

■今回はじめてアフリカの作品による大規模特集を行なった。近年、世界のドキュメンタリー映画界においても大きなうねりとなっている「アフリカからの視点でアフリカ像を再構築」する全22作品を3部構成により上映した。国内でも希少な機会であることから多数の観客が詰めかけた。



『イントレ』質疑応答の様子



はじめてのアフリカ特集は大人気



『アントノフのビート』トーク



『コンゴ川 闇の向こうに』質疑応答

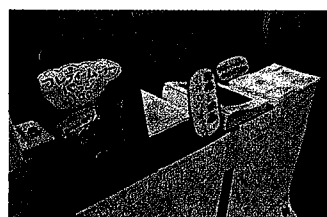
共演する身体-フレディ・M・ムーラー特集

後援：スイス大使館

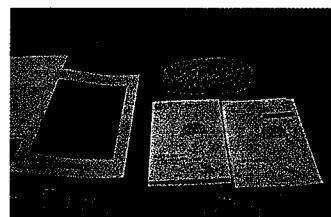
会場：山形市民会館小ホール

上映作品数：14作品 入場者数：1,602人

■小川紳介監督とも深い親交があったスイスの巨匠フレディー・M・ムーラー監督の初期の実験映画およびドキュメンタリー映画を14作品上映した。『山の焚火』などの劇映画によって国際的に高い評価を得てきた監督の貴重な初期作品ということもあり、注目度が高かった。当初はムーラー監督に来形いただく予定だったが、ご体調の都合により叶わなかった。



フレディ・M・ムーラーバッジ



ムーラー特集カタログ



ムーラー特集では同時通訳機が大活躍



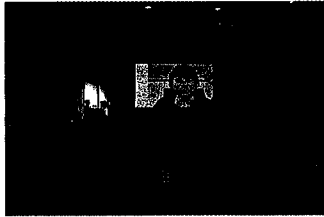
貴重な上映とあって連日の混雑ぶりだった

政治と映画：パレスティナ・レバノン 70s-80s

会場：山形市民会館小ホール

上映作品数：14作品 入場者数：948人

■今なお混乱が続く中東情勢を1970年代から80年代にかけて撮られた映画作品から逆照射的に見つめるプログラム。第一部ではミリタント映画と呼ばれるパレスティナ革命に共鳴して作られた作品群、第二部ではレバノン出身でアラブを代表するジョスリーン・サアブ監督の作品を特集した。



ジョスリーン・サアブ監督とオンライン中継



スクリーン越しに質問が飛ぶ



ムハンナド・ヤークービ氏の来日叶わず



代わりに足立正生監督が盛り上げた

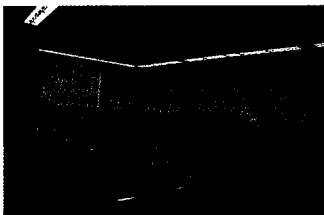
やまがたと映画

協力：山形大学人文社会科学部附属映像文化研究所

会場：山形美術館 展示室2、フォーラム山形 5番館、4番館、KUGURU、山形まなび館

上映作品数：17作品 入場者数：1,143人

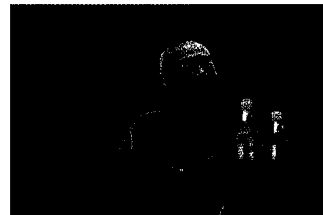
■今回は4つのテーマで全17作品を上映した。「やまがた映画館異聞録」では酒田グリーン・ハウスと上山トキワ館を取り上げ、関連作品、証言記録映画の上映と同時にトークや資料展示も行なった。「あれから10年：今、佐藤真が拓く未来」では当映画祭と縁の深い佐藤真監督をレトロスペクティブ的に紹介、影響を受けた若手作家たちによるトークなども開催した。そのほか「やまがた映像の未来」「映像文化創造都市山形を目指して」、市民参加ワークショップ「エンカウンター・シネマ」を行なった。



大変な人気だったグリーン・ハウス上映



『世界一と言われた映画館』トーク



笑顔のたえなかった伊藤和典氏トーク



トークが充実していた佐藤真監督企画

ともにある Cinema with Us 2017

助成：公益財団法人カメイ社会教育振興財団、平成29年度公益財団法人企業メセナ協議会「東日本大震災 芸術文化による復興支援ファンド」、平成29年度損保ジャパン日本興亜「SOMPOアート・ファンド」

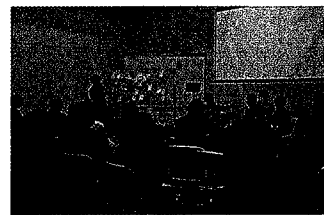
会場：山形美術館 展示室2、展示室5

上映作品数：8作品 入場者数：531人

■東日本大震災、それにともなう原発事故という未曾有の体験と、そこから生まれ続ける課題を改めて見つめ、伝えていくプログラム。4回目となる今回は、震災の記憶の風化と変化に抗う6作品を上映すると同時に、「311ドキュメンタリーフィルム・アーカイブ」に関連して、カンボジアのボパナ視聴覚リソースセンターと連携し、「アーカイブをめぐる対話」と題した特別企画も行なった。



恒例となったディスカッション



今回も活発な意見交換がなされた



ボパナ視聴覚センターとの連携企画



映像アーカイブについての意見交換

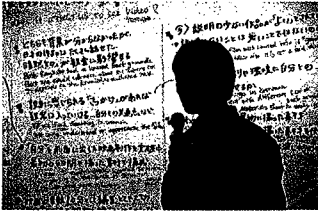
ヤマガタ・ラフカット!

助成：国際交流基金アジアセンター

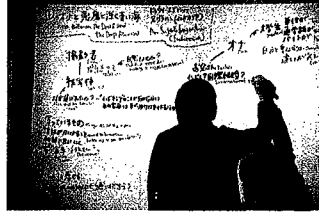
会場：KUGURU

上映作品数：6作品 入場者数：115人

■完成作品ではなく、撮影、編集途中にあるプロジェクトを公募し、6本のラフカット（粗編集版）を上映して、作り手やゲストを交えて公開対話を行うプログラム。今回はじめて海外作家も対象となり、インドネシアとフィリピンからそれぞれ1作品が参加した。また今回はじめて高校生や大学生たちとの対話に重点をおいた「ユース・ラフカット！」も行った。



柔軟な対話の空間



日英両並記によるわかりやすい板書



作り手も客席から発言する



高校生を主としたユースラフカット!

その他企画上映・イベント

◇YIDFFネットワーク企画

会場：フォーラム山形 5番館

上映作品数：1作品 入場者数：182人

■市民有志が立ち上げた映画祭応援団体による上映企画。毎回映画祭と協力して様々な上映を行ってきた。今回も独自の視点で選んだ1作品を上映した。

◇アジア千波万波特別企画「ロックスリースペシャル」

助成：国際交流基金アジアセンター

会場：旧西村写真館、山形市民会館小ホール

作品数：11作品（+展示） 入場者数：320人

■当映画祭と縁の深いアーティスト・映画作家ロックスリーの特別企画

- 1980～90年代短編集上映
- 近作長編作品上映&トーク
- 「ロックスリーの館」ドローイング、漫画、映像作品等の展示

◇ヤマガタ映画批評ワークショップ

会場：山形まなび館、山形市民会館（小会議室）

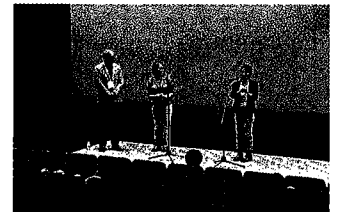
ワークショップ参加者数：定員4人（国内：2人 海外：2人）

■映画祭というライブな環境に身を置きながら、ドキュメンタリー映画を通して世界について思考し、執筆し、読むことを奨励するワークショップを行なった。参加者は国内外から公募し、選定した。

期間：10月6日（金）－9日（月・祝）

◇スペシャル・イベント

- 「アフリカ特集関連企画 アフリカナイト！」入場者：136人 会場：Sandinista
- 「キミのヒカリに満ちた「世界」を求めて～佐藤卓哉監督に聞く：現実（リアル）を書き換えるアニメとは～」入場者：71人 会場：山形美術館
- 「フィリピン映画の現在：第3期黄金時代はいかにして到来したか」入場者：16人 会場：山形美術館
- 「イメージの時空間-映像アーカイブの多角的展開にむけて」入場者：72人 会場：山形美術館
- 「KUGURU ワタナベアニ トーク」入場者：45人 会場：KUGURU



手話を交えた『スタートライン』トーク



ロックスリー氏によるパフォーマンス



ロックスリー作品展示

⑤関連企画

開会式・表彰式

会場：山形市中央公民館（アズ七日町） 入場者数：【開会式】537人【表彰式】404人

■開会式は山形交響楽団によるミニコンサートでスタートした。オープニング上映では松本俊夫監督の『西陣』『銀輪』に続いて、三面マルチプロジェクションにて『つぶれかかった右眼のために』を上映した。貴重な上映機会とあって、国内外から多くの観客がつめかけ、国際的にその存在感を示す華々しい開幕となった。表彰式では外部賞も含め4部門9つの賞を発表した。その結果は下記の通り。



開会式、映画の祭典の幕開け



佐藤市長による式辞



招聘ゲスト監督たちの紹介



喜びの授賞式

◇YIDFF 2017 受賞作品

■インターナショナル・コンペティション

審査員：イグナシオ・アグエロ（審査委員長）、ディナ・ヨルダノヴァ、ランジャン・パリット、七里圭

ロバート&フランシス・フラハティ賞（大賞）

『オラとニコデムの家』

監督：アンナ・ザメツカ

山形市長賞（最優秀賞）

『カーキ色の記憶』

監督：アルフォーズ・タンジュール

優秀賞

『孤独な存在』

監督：沙青（シャー・チン）

『私はあなたのニグロではない』

監督：ラウル・ペック

特別賞

『激情の時』

監督：ジョアン・モレイラ・サレス

■アジア千波万波

審査員：テディ・コー、塩崎登史子

小川紳介賞

『乱世備忘-僕らの雨傘運動』

監督：陳梓桓（チャン・ジーウン）

奨励賞

『人として暮らす』

監督：ソン・ユニョク

『あまねき調べ』

監督：アヌシュカ・ミーナークシ
イーシュワル・シュリクマール

特別賞

『パムソム海賊団、ソウル・インフェルノ』 監督：チョン・ユンソク

『翡翠之城』 監督：趙徳胤（チャオ・ダーイン/ミディ・ジー）

■市民賞

『ニッポン国VS泉南石綿村』

監督：原一男

■日本映画監督協会賞

『あまねき調べ』

監督：アヌシュカ・ミーナークシ
イーシュワル・シュリクマール



受賞者全員で記念撮影



小川紳介賞の陳梓桓監督



大賞のアンナ・ザメツカ監督



フォトセッションの様子



喜びの記者会見

ウェルカム・パーティー・さよならパーティー

会場：山形グランドホテル

■開会式後にゲスト、プレス・関係者を招いて「ウェルカム・パーティー」を開催した。前回大変好評だった山形県麺業組合の協賛による「そば打ち」実演を今年も催した他、裏千家の茶点、やまがた舞子など、映画祭を盛り上げる立役者たちへのおもてなしとして、強く山形の食と文化を印象つけた。また表彰式終了後、ゲストに加え、映画祭の様々な局面で活躍していただいた市民ボランティアを招待し、「さよならパーティー」を開き、国内外の参加者たちを労った。およそ一週間にわたる映画祭の中で育まれた出会いとその喜びを分かち合い、2年後に再会することを誓い合った。



やまがた舞子が華を添える



そば打ちの妙技を間近で



お互いの労をねぎらう



再会を誓って固い握手

香味庵クラブ（市民と映画関係者の交流の場）

会場：香味庵まるはち 来客数：1,878人

■「香味庵で会いましょう」が世界の映画関係者の中で合言葉になるほどに定着した映画祭名物の交流の場。ゲスト、観客、ボランティアが垣根なく、酒を酌み交わしつつ映画談義ができる空間として、今回も大変多くの方が詰めかけた。2017年は10月6日から11日までの6日間、22時から26時までオープンした。入場料はドリンク・おつまみ付きで500円。運営は全て市民ボランティアの手による。



お馴染みの夜の交流の場



香味庵クラブの皆さん大活躍



垣根なく誰もが楽しめる空間



ベニちゃんもおもてなし

デイリー・ニュースの発行

編集室：丹六ビル3F

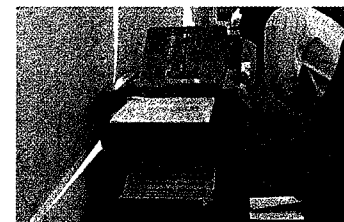
■連日盛り上がりを見せる映画祭の様子を伝える日刊紙の発行を行なった。最新トピックから監督インタビューまで、魅力的な話題が紙面を飾った。各会場にて、合計7号を無料で配布。その他、映画祭の関連施設などでも手にすることができるようにした。編集室を丹六ビル3Fに設け、連日深夜まで編集に明け暮れる。来場するゲスト、観客はこのデイリー・ニュースを連日楽しみにしていたようだ。それは即時在庫部数切れとなる状況からもうかがえた。運営は全て市民ボランティアの手による。



連日行なわれる編集会議



原稿のチェックに余念がない



発行までは時間との勝負



デイリー・ニュース完成！

ゲスト観光ツアー →次項⑥ゲスト招聘参照

他団体からの協賛・協力及び共催企画

協賛金 **5,423,650円**

協賛 **133件**

協力【団体・企業】

166件

【個人】

236件

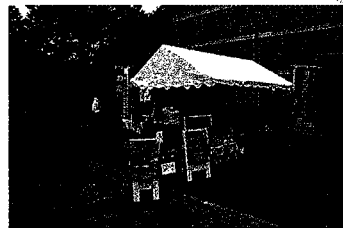
※協力者名の詳細については『山形国際ドキュメンタリー映画祭 2017 公式カタログ』を参照

◇各種協賛・協力の具体的事例（一部）

- スイス大使館（フィルム輸送協力）
- 山形市旅館組合（映画祭向け低料金設定）
- 城西牛乳株式会社（パーティー用の牛乳提供）
- ナナビーンズ内子育てランドあ〜べ（託児連携）
- 山形まるごと館紅の蔵（映画祭応援イベント企画）
- レストランnitaki（小川プロ特製カレーの製作販売）
- 紅の会やまがた舞子（ウェルカムパーティーでの演舞）
- オワゾブルーカフェTREE（山形カクテルBARの開催）
- 映機工業株式会社（各会場の映写用プロジェクタを提供）
- 山形県農業協同組合（パーティー用の果物や食材の提供）
- 山形麺類食堂協同組合（蕎麦打ち実演、ボランティア食券使用）
- 会場ボランティア有志（市民会館ロビーでのコーヒーショップ）
- 八文字屋書店（映画祭会場内における関連書籍の販売ブース設置）
- 茶道裏千家淡交会山形支部（ウェルカムパーティーでのお点前実演）
- 株式会社A&C（ソフトバンク）（期間中のスタッフ用携帯電話提供）
- 山形県農林水産部県産米ブランド推進課（パーティー用「つや姫」提供）
- 七日町周辺各飲食店（映画祭公式グルメマップ協賛及び特別メニュー考案）
- 山形食育ネットワーク（来場者に対して無償でのつや姫おにぎり芋煮おふるまい）
- ヨガイストラクター有志（中央公民館5Fサロン、市民会館前広場での朝ヨガ体験）
- わたしの会社、ひぐらし珈琲（山形美術館前広場、市民会館前広場でのパンとコーヒーの売店設置）
- ビューティフル・コミッション（市民賞賞品提供、香味庵）、（社）山形青年会議所（香味庵クラブの運営）



八文字屋による出店



温かい珈琲がとても喜ばれた



朝ヨガで心も体もリフレッシュ



屋台の出店も大人気



お点前実演に興味津々の様子



大人気のおふるまいタイム



市民会館ボラさん運営による喫茶コーナー

◇協賛についての所見

映画祭公式カタログへの広告協賛や映画祭チケット購入協賛は今回も厳しい状況だった。特にチケット協賛については今後協賛を県内各地の企業や団体に拡大するには協賛金や広告集めを現在の1班から2班体制に増やすことが必要。また大企業とのパートナーシップの確立には当法人の実績や可能性を示すビジュアル資料やデータを整え、準備年から接触を図ることが肝要。また、当法人の理事も含めた様々なルートを通じての幅広い資金獲得活動を今後検討していく。

◇地元団体との共催企画など

開会式での山形交響楽団によるミニコンサート

日時：10月5日【木】 開演17:15～ 会場：山形市中央公民館6Fホール

指揮：飯森範親（山形交響楽団音楽監督） 曲目：「フィガロ」序曲、ルーマニア民族舞曲、アンダンテ・フェスティーボ、「こもり」序曲
協賛：山形建設、山形県民共済生活協同組合、山形パナソニック株式会社

■山形国際ドキュメンタリー映画祭 2017 の開会式にて、地元の交響楽団フルオーケストラによる演奏を味わっていただき、芸術文化の街をアピールした。

「やまがたと映画」内企画〈映像文化創造都市山形を目指して〉

第1部：芸工大生が写す山形の未来 『Hard Boiled City Yamagata』 『映像と向き合う生き方』 上映

第2部：映像で山形ルネッサンス 『山形鋳物～暮らしのデザインを求めて～』 『山形打刃物～生活の中の道具～』 上映

日時：10月10日【火】

会場：山形美術館2

■映像文化創造都市を目指す山形市が制作した映像作品を4本借用し、上映を行なった。山形市の取り組みを紹介すると同時に、ヤマガタの魅力国内外に発信するべく、英語版にて上映した他、伝統的工業製品を直に触れてお楽しみいただく機会を山形市文化振興課の多大なるご協力により実施した。

YIDFF 2017 特別企画「山形カクテルBAR」

日時：10月9日【月・祝】 11:00 - 21:00

会場：オワゾブルーカフェTREE

■山形国際ドキュメンタリー映画祭 2017 開催期間中、果樹王国山形の果物をふんだんに使ったカクテルが楽しめる人気のイベント「山形カクテルBAR」を開催し、国内外の映画祭参加者をはじめ、多くの市民に山形の新しい酒文化を味わう機会を提供し、大好評を博した。

山形まなび館：YIDFF 2017 応援企画

①山形まなび館「やまがたシネマのじかん」

期間：10月5日【木】～12日【木】 10:00～17:00

会場：山形まなび館イベントスペース

②「山形国際ドキュメンタリー映画祭の歴史を辿る」パネル展示

期間：9月29日【金】～10月22日【日】 9:00～18:00

会場：山形まなび館地下ギャラリー

③映像にちなんだ体験講座・ワークショップ

1. オリジナル・アニメーション・プロジェクター（幻灯機）を作ろう！

日時：10月8日【日】 10:00～12:00

2. 常設体験ワークショップ「ソートロープで絵が動くおもちゃを作ろう！」

期間：10月5日【木】～12日【木】 10:00～17:00

■「エンカウンターシネマ in YAMAGATA」、「ヤマガタ映画批評ワークショップ」の会場となっていた山形まなび館が映画祭応援企画として3つの自主企画を主催した。プロ、アマ問わず、山形在住の映像制作者から山形をテーマにした作品を募り、館内の特設上映スペースで上映会を開いた。またこれまで映画祭が製作してきた開催告知ポスターや開催の様子を伝える写真パネル、その他各種資料を展示し、山形国際ドキュメンタリー映画祭の歴史を辿ることができるパネル展を行なっていた。さらに、視覚玩具を制作する子ども向けのワークショップも行ないながら、映画祭空間を盛り上げる意図により、様々な企画を展開していただいた。

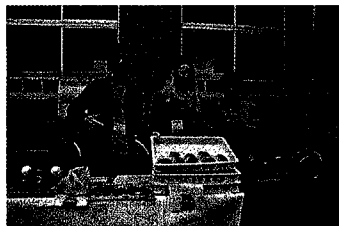
「ドキュ山マルシェ」の開催

日時：10月8日【日】 10:00 - 12:00 会場：山形まなび館前広場

■山形、村山、戸沢の生産者3市村6農家とともに、最上地域観光協議会、村山総合支庁農業技術普及課による協力・アドバイスのもと、国内外から訪れた映画祭の観客に山形の農産物や食の魅力を発信することを目的として、「ドキュ山マルシェ」と銘打った朝市を開催した。朝採り野菜、ぶどうなどの旬の果物のほか、どんどん焼きやさつまいものお菓子なども販売してもらい、「おいしい山形」をPRした。後日、来場した映画祭観客から事務局に生産者の方に直販をお願いしたいとの問い合わせがあり、「ドキュ山マルシェ」をきっかけに「おとりよせ」する事例が発生した。映画祭をプラットフォームにして「ヤマガタ」の魅力を多角的に発信する試みの中で、マルシェの開催は初めてのケースであり実験的要素が強い部分もあったが、こうした実績があがったことでその有用性が実証されたと考える。今後も引き続き、こうした取り組みを他団体と協力しながら推めていくべきであろう。



外国の方もたくさん来場した



映画祭公式どら焼きが人気



生産者の方々のご協力で開催できた



朝早い時間にも関わらず賑わいがあった

ワタナベアニ写真展「シネマ通り」

期間：10月5日【木】～12日【木】 13:30 - 21:30 会場：とんがりビル

■「山形ピエンナーレ」と連携した企画として、国内外で高い評価を受けている写真家ワタナベアニ氏を招いた写真展とトークを東北芸術工科大学との共催で行なった。「シネマ通り」を行き交う人を中心に、ポートレート撮影。映画祭ゲストの多くも被写体となり、魅力的な写真展となり好評を得た。

山形大学との共催企画「フィリピン映画の現在：第3期黄金時代はいかにして到来したか」

日時：10月6日【金】 15:30 - 17:30 会場：山形美術館5

■山形大学人文社会科学部主導によりフィリピン映画、フィリピン社会を語り尽くすパネル・ディスカッションを開催した。映画祭ゲストからロックスリー氏、ジョン・ジャンヴィト監督が登壇した。

コラボイベント「キミのヒカリに満ちた「世界」を求めて」

日時：10月7日【土】 14:00 - 15:15 会場：山形美術館5

■当映画祭と山形のタウン誌「月刊山形ZERO☆23」、音楽レーベルの株式会社ポニーキャニオンとの三者コラボにより、人気アニメ監督の佐藤卓哉氏を招いたトークショーを開催。アニメとドキュメンタリー表現にまつわる魅力的な話が展開した。アニメファンと映画祭を結びつける結節点となった。

イメージの時空間-映像アーカイブの多角的展開に向けて

日時：10月9日【月・祝】 16:15 - 19:15 会場：山形美術館5

■当映画祭が研究協力者として参加している東北芸術工科大学の研究プロジェクト「小規模映画の保存と修復およびアーカイブに関する研究」のシンポジウムを開催した。映画・映像をいかにデジタル化し、どのような形で残していくのか、という映画保存のこれからを話し合った。

⑥ゲスト招聘

ゲスト数：191人（うち海外63人） 【YIDFF 2015 **ゲスト数：206人（うち海外91人）**】

■世界中からゲスト（映画監督など）を招聘し、様々なイベントや交流を通して、映画や文化についての情報や課題を多くの参加者と共有し、山形から全国に、また世界に向けて多様な媒体によってそれを発信した。

◇案内窓口の設置（山形駅構内等）

**日時：10月5日（開催初日）12:00～、10月6日～8日（連休中日）9:00～18:00
10月9日（連休最終日）9:00～12:00**

■映画祭ゲストだけではなく、観客や一般市民も利用できる案内窓口を要所に設置した。映画祭の情報を必要とする方々に、より丁寧なケアを行なうことができた。運営は全て市民ボランティアによって行われた。ゲストはバス or タクシー乗り場へ誘導。それ以外の方はバス乗り場などへご案内した。案内窓口設置は非常に好評だった。観光客や一般市民に対しても映画祭を宣伝できたことが一番の効果であったと考える。今回も山形市観光ボランティアガイド協会の皆さんと連携することができた。



観光案内も兼ねています



ようこそ山形へいらっしゃいました！



専用バスへご案内します



ホテルまでの楽しい車内

◇山寺ツアー（地元中学生との交流）

申込者：28名（うち同行ボランティア6名） ※定員20～25名

参加者：26名（当日キャンセル2名）

国籍：香港、台湾、インドネシア、チェコ、イタリア、レバノン、イラン、韓国、日本

■今回は初めてボランティアも山寺中学校との事前打ち合わせに参加。依頼を受け、英会話練習の授業へも初参加となった。事前に顔合わせができたことで、当日は打ち解けて交流することができた。また、台湾人参加者が会期中にお礼のハガキを中学校に郵送し、感謝の気持ちを伝えた。こうした事例は初めてであり、さらに中学生からはボランティア一人一人にお礼の寄せ書きが送られた。「英語をもっと頑張る！」との声も多かった。今回は例年以上に相互の交流が深まった。小川紳介賞の陳梓桓（チャン・ジューン）監督は、受賞記者会見で「山寺ツアーはご褒美」とコメントし、会場を沸かせた。



太鼓でお出迎え



もちろん芋煮も食べられます



屋外でピクニック気分



山寺駅で記念撮影

◇サイクリングツアー

■ボランティア主導によるサイクリングツアーを企画した。ボランティア有志でポスター・チラシを作成し、参加を呼びかけた。2名のインドの監督から申し込みがあり準備を進めていたが、開催当日になり、急遽ゲスト登壇の予定が入り、キャンセルとなってしまい、ツアー実施は断念せざるを得なかった。

⑦入場チケットの販売

入場券販売実績 11,904,600円 (前回比88.6%)

■次の券種を発行し、販売を展開した。

前売券 1回券：1,100円 3回券：2,700円 10回券：6,500円 フリーパス：11,000円

当日券 1回券：1,300円 3回券：3,200円 10回券：9,000円 フリーパス：13,000円

シルバー料金 (1回券のみ)：1,100円 (60歳以上)

障害者割引料金 (1回券のみ)：1,100円 (障害者手帳提示)

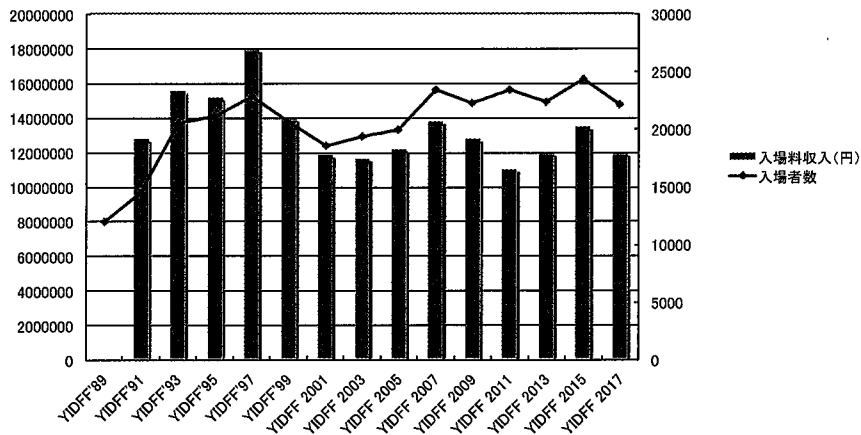
【券種別販売内訳】

1回券	1,558枚	1,899,600円 (前売：193,600円、当日：1,706,000円)
3枚綴券	793枚	2,371,600円 (前売：885,600円、当日：1,486,000円)
10枚綴券	565.4枚	3,887,600円 (前売：3,116,100円、当日：771,500円)
フリーパス	354枚	3,745,800円 (前売：2,541,000円、当日：570,000円、学割：624,000円、ふるさと納税：10,800円)

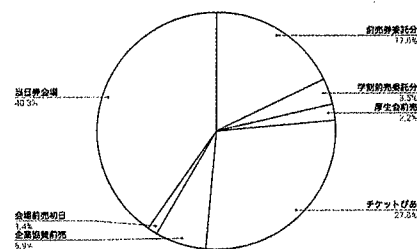
【販売箇所別売上】

委託 (前売)	：2,029,200円	委託 (学生バラ売)	：399,100円	ふるさと納税	：10,800円
山形市役所厚生会	：249,000円	チケットぴあ	：3,130,700円		
企業協賛	：776,100円	映画祭初日販売 (8日)	：152,200円		
当日券	：3,906,600円	当日券割引 (会員)	：29,400円		
当日券割引 (障がい)	：27,500円	当日券割引 (シニア)	：469,700円		
学生団体割 (国内@8,000円)	：624,000円	委託分当日券	：100,300円		

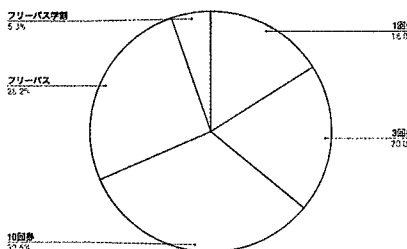
	YIDFF'89	YIDFF'91	YIDFF'93	YIDFF'95	YIDFF'97	YIDFF'99	YIDFF2001	YIDFF2003
入場料収入	データ無	12,721,862	15,531,792	15,132,562	17,899,291	13,902,967	11,734,009	11,595,794
	YIDFF2005	YIDFF2007	YIDFF2009	YIDFF2011	YIDFF2013	YIDFF2015	YIDFF2017	
入場料収入	12,151,896	13,740,957	12,714,500	10,934,500	11,899,300	13,423,500	11,904,600	



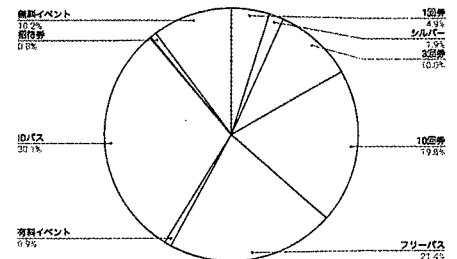
【売場別入場券売上内訳】



【券種別入場券売上内訳】



【券種別入場者数内訳】



⑧広報宣伝活動

イベントの開催

山形国際ドキュメンタリー映画祭 2017 プレイベント

2017年 8月12日(土)
入場無料【会場：大ホールステージ】
佐藤広一監督作品

■映画祭2017開催に向けて、市民県民の関心を高めるためにイベントを開催した。今回は映画祭の開催を応援してくれている川西町フレンドリープラザと浴浴センターまどかと共に上映会を企画した。映画祭本番で上映した『世界一と言われた映画館』の制作真っ最中ということもあり、それらをPRする意図もあって佐藤広一監督の最新作の連続上映を行うこととなった。当初イベント経費は「映像文化推進事業」予算に組んでおり、収益を目指した事業としていたが、協力団体からの経費負担の申し入れ等もあり、持ち出しを行うことなく事業を行うことができた。また川西町で開催を行ったことで周知が行き届いていない置賜地域において映画祭PRを行うことができた。

山形国際ドキュメンタリー映画祭 2017 プレイベント 佐藤広一監督作品上映会

開催日：2017年8月7日【月】 会場：浴浴センターまどか
2017年8月12日【土】 会場：川西町フレンドリープラザ

- 内容：①『まちのひかり』『君に届けば～まちのひかり』
上映と佐藤広一監督トーク@浴浴センターまどか
②『山形鑄物』『山形打刃物』上映@川西町フレンドリープラザ
③「山形国際ドキュメンタリー映画祭の歴史を辿る」パネル展示

ポスター・スケジュールチラシの製作・設置

YAMAGATA International
Documentary Film Festival 2017



山形国際ドキュメンタリー映画祭2017
10月5日(木) - 12日(木) October 5-12

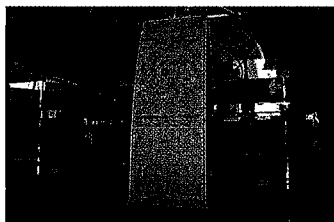


「コミュニケーション」視覚化、手で表現

■映画祭のメインポスターを製作した。デザインは東北芸術工科大学グラフィックデザイン学科学生の中から当法人理事会および事務局にて選考を行ない決定。このメインデザインはスケジュールちらし、公式カタログ、会場設置看板等に展開し、山形国際ドキュメンタリー映画祭 2017の共通イメージを生み出した。ポスターおよびチラシは市内中心商店街への掲示をはじめ、市内外の各種店舗、各施設などにも貼り出しを行なった。その他、国内外の映画関係施設、教育機関等にも掲示依頼を送付した。

◇制作部数 **ポスター：3,000部** **チラシ：55,000部**
ポストカード：3,000部 **会場設置看板：11枚**

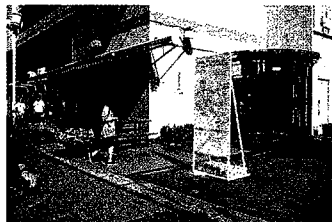
主な送付先は、全国の映画館、映像系教育機関、美術館等文化施設など



お馴染みのアズ前大型看板



期間中は各会場を飾った



どの会場でも目印となる



タイムテーブルチラシ

公式ウェブサイト及びメールマガジン等、インターネットを利用した広報活動

■公式ウェブサイトでは週一回の更新ペースで最新情報を掲載した。訪問者数は過去最高だった2015年を25.7%上回るという結果となり、世間一般での当映画祭への注目度が更に高まっていることを窺わせる。また、メール配信システムによる『YIDFFニュース』を日本語版、英語版の2パターン制作し、月一回定期配信、上映会情報などの最新の話題と映画祭情報を希望者に提供した。今年度はこれまで2回運用してきたブログサイトをリニューアルし、通年を通して「より親しみやすい映画祭情報の発信」を目指した「ドキュ山ライブ!」を開設。最新のトピックや映画祭の生の活況を伝えるページを連日更新し、また映画祭後も豊富な写真と平易な文章を心がけ、日常的な活動の発信と報告に活用した。その他、Twitter、FacebookなどのSNSによる双方向情報発信システムを使い、PRに努めた。

YIDFFオフィシャルサイト [URL : www.yidff.jp]

【アクセス解析】

期間：2017年4月から2018年3月まで（12ヶ月）

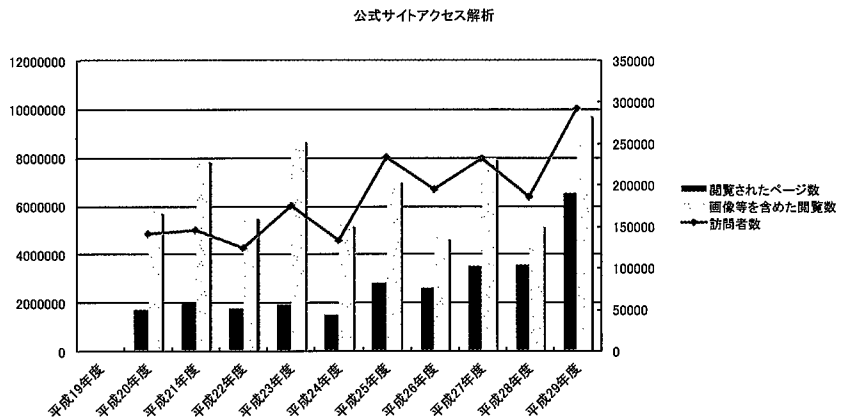
訪問者 **291,092人**（前回比 125.7%）

閲覧されたページ数 **6,513,614件**（前回比 186.5%）

画像等を含めた閲覧数 **9,742,266件**（前回比 122.5%）



これまでの映画祭の内容もわかる設計



	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
訪問者数	データ無	140,566	145,300	123,444	174,140	132,467	232,453
閲覧ページ数	データ無	1,708,630	1,955,122	1,747,624	1,917,144	1,464,839	2,804,393
画像を含む閲覧数	データ無	5,751,637	7,373,738	5,533,004	3,705,025	3,207,973	7,021,634
	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度			
訪問者数	193,669	231,636	184,287	291,092			
閲覧ページ数	2,537,713	3,492,838	3,530,966	6,513,614			
画像を含む閲覧数	4,684,397	7,955,964	5,189,368	9,742,266			

メールマガジン『YIDFFニュース』月1回発行（日本語版、英語版）

■多種多様な上映会情報に加え、人気コーナー「事務局より」では関係識者によるコラムなども掲載。その他トピック記事などを配信した。

【実登録者数】 ※2018年3月現在

日本語版 2,497人 (前回比 102.7%)

英語版 2,272人 (前回比 103.7%)

YIDFFニュース <2018年4月9日号>

[HEADLINE]

1 事務局より
 + YIDFF「貸出作品リスト2018年版」完成
 + 『世界と変わった映画館～酒田グリーン・ハウス証書集～』山形上映
 + 認定NPO法人山形国際ドキュメンタリー映画祭 ご支援のお願い

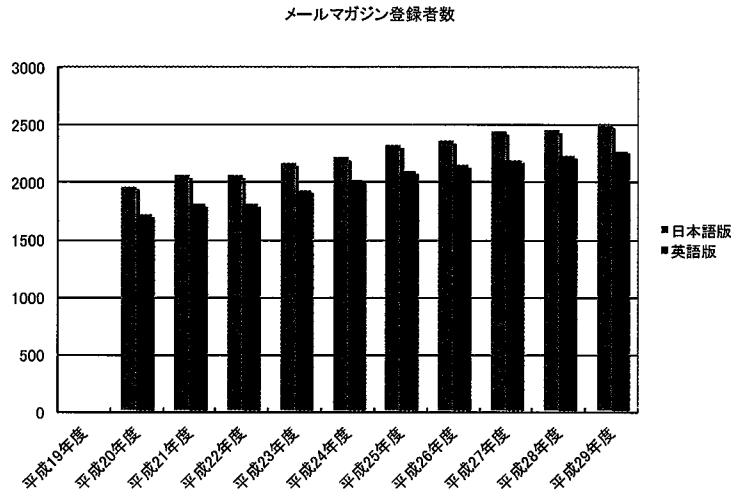
2 山形ドキュメンタリーフィルムライブラリー金曜上映会
 3 その他上映会・イベント情報
 4 編集後記

1 事務局より

□*■ YIDFF「貸出作品リスト2018年版」完成 □*■*

山形事務局では、映画祭で上映された作品の一部を国内の非営利上映会向けに貸し出しています。
 今年度はYIDFF 2017 インターナショナル・コンペティション作品、アジア千波万波作品、カンボジア・ボバナ視聴覚リソースセンター製作作品など、短編を含む計24本が新たに作品リストに追加されました。
 既に映画祭ウェブサイトでは作品リストを更新していますが、このほど冊子「貸出作品リスト2018年版」も完成し、現在各所に配布中です。ご希望の方は郵送致しますので、その旨映画祭事務局までお知らせください。
 ※貸出料の半額を製作支援として製作者に還元しています。

[問い合わせ]
 phone: 023-666-4480
 e-mail: info@yidff.jp
 (担当: 山形事務局・費水)

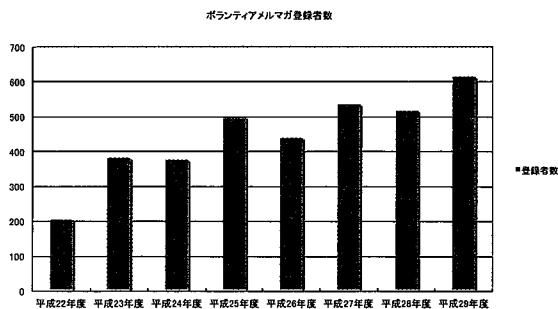


映画祭の最新情報がお手軽に受け取れる

	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
日本語版	データ無	1,953	2,056	2,052	2,163	2,209	2,320
英語版	データ無	1,712	1,808	1,806	1,930	2,018	2,090
	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度			
日本語版	2,357	2,431	2,449	2,497			
英語版	2,145	2,190	2,231	2,272			

ボランティアメールマガジン『ボラマガ!』月1回発行

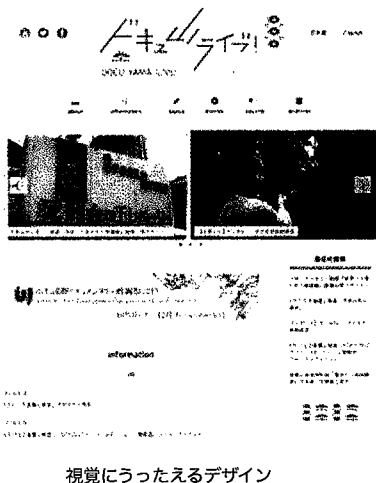
日本語版のみ 613人 (前回比 114.8%)



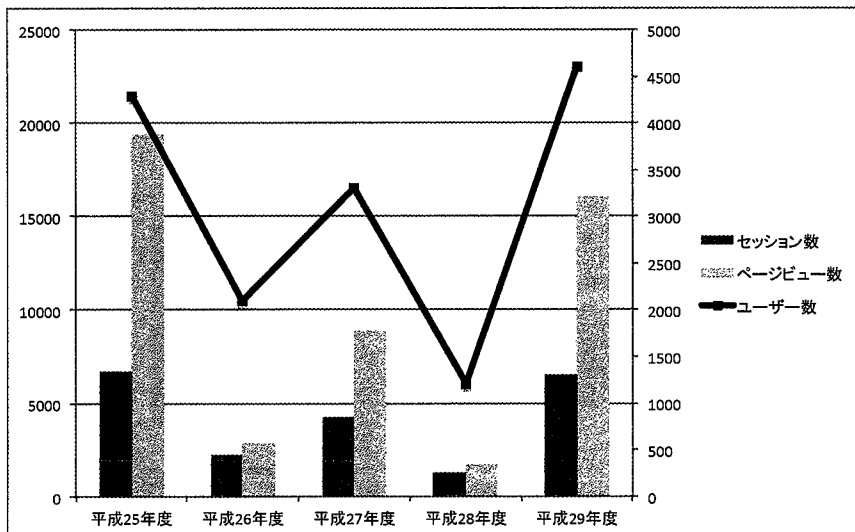
	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
登録者数	204	379	374	498	473	534	516
	平成29年度						
登録者数	613						

YIDFF公式ブログ『ドキュ山ライブ!』

■公式サイトとは別に公式ブログを運用した。今回新たにデザインとサイト構成を一新し、これまで映画祭を知らなかった人にも伝わるサイトを目指した。映画祭期間中は広報ボランティア、デイリーニュースボランティアとの連携により、映画祭各所の賑わいの様子をレポート。これまで取り上げ切れなかった小さなイベントも含めて、リアルタイムに映画祭を伝えることができた。また、映画祭終了後も定期的に運用し、最新情報の発信、イベントの報告などを写真を多用してビジュアルに訴える内容とすることで、公式サイトとの差別化をはかり、ユーザー数を徐々に伸ばしてきている。



視覚にうたえるデザイン



	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
ユーザー数	4,285	2,092	3,309	1,207	4,599
セッション数	6,747	2,223	4,258	1,274	6,537
ページビュー数	19,377	2,839	8,910	1,721	16,049

YIDFF公式Twitter アカウント名: yidff_8989

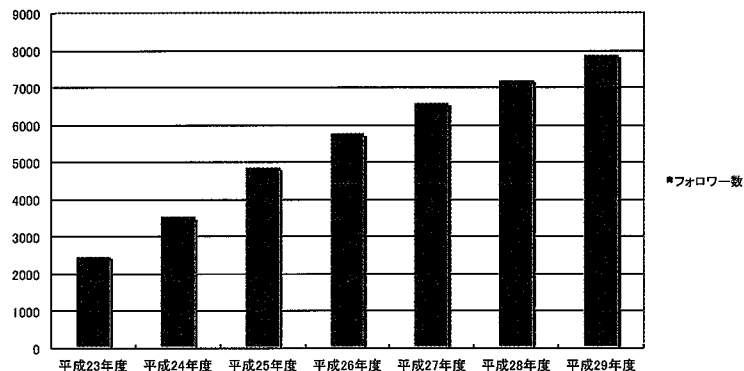
■リアルタイムな情報発信を可能にするミニブログ。上映情報の発信などで、当日の集客に結びつく成果を上げた。

フォロワー数 **7,843人** (前回比 119.2%)



情報の早さが取り柄

Twitterフォロワー数



	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
フォロワー数	2,452	3,502	4,847	5,751	6,566	7,186	7,843

YIDFF公式Facebook URL : <https://www.facebook.com/yidff/>

■映画祭公式のFacebookページを運用した。国内はもちろんのこと海外への情報発信に力を入れ、日本語英語両並記とした。また、画像、動画掲載に容易であることを活かし、インターナショナル・コンペティション作品の画像や映画祭期間中の様子などを写真付きで掲載し、映画祭開催までの気運を高めた。映画祭直前および期間中はボランティア有志によって運用された。フォロワーは微増傾向を維持している。



フォロワー数 **1,797人** (前回比148.8%)

映画祭情報紙『ドキュやま!』の発行

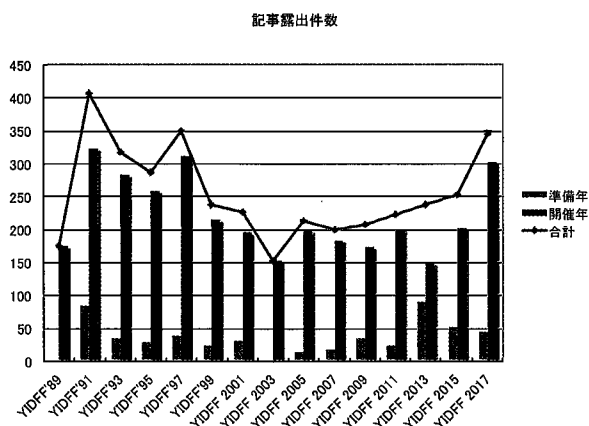
■映画祭 2017 の情報やライブラリー作品上映情報などを掲載する映画祭情報紙『ドキュやま!』を制作した。山形市内を中心とした県内各所に配布。市民への情報告知ならびに映画祭の認知度アップを図ることを目的としている。今年度は「ドキュ山ユース自主上映会」、「子どもの映画教室」や主催イベント上映などの事後報告を、躍動感のある写真と文章で紹介し、日常的に行っている映像文化振興活動を広く知ってもらう工夫を行った。また、映画祭開催年らしく上映作品や特集プログラムなどをいち早く掲載し、本祭への気運を盛り上げた。市内の飲食店や書店などの協力により、各店舗に設置していることから、映画ファンのみならず、これまで映画祭に足を運んだことのない一般市民に対しても広く情報を発信できる媒体となっている。

判型：A4サイズ四つ折り 発行：年間5回（偶数月1日、準備年は年間6回発行）
部数：各回7,000部配布（年間35,000部配布）



パブリシティの設定

■国内外および山形県内のマスコミ各社に対して、映画祭開催に関する情報や注目トピックについて情報を発信した。主にプレス・リリースという形により、記事として取り上げてもらえるように営業活動を展開。また、それに合わせコンペティション作品タイトル発表などの重要事項については記者会見を行なった。特に今回はウェブ媒体による波及効果を重視し、ウェブ系記者宛てにリリースを送った。日本人監督2名がコンペに選出されたことなど、注目度が高い題材を発信し、話題性のあるトピックを紹介した。これらの活動により、20年ぶりに300件を超える記録を獲得した。



記事露出件数 346件 (前回比172.1%)

	YIDFF'89	YIDFF'91	YIDFF'93	YIDFF'95	YIDFF'97	YIDFF'99	YIDFF2001	
準備年	データ無	83	35	29	33	23	31	
開催年	174	323	283	258	311	214	195	
合計	174	406	287	287	349	237	226	
	YIDFF2003	YIDFF2005	YIDFF2007	YIDFF2009	YIDFF2011	YIDFF2013	YIDFF2015	YIDFF2017
準備年	データ無	14	17	34	22	89	51	44
開催年	151	198	183	173	200	143	201	302
合計	151	212	200	207	222	237	252	346

【記者会見の開催】

- ◇ **インターナショナル・コンペティション作品発表記者会見**
[6月29日 会場：山形ドキュメンタリーフィルムライブラリー]
- ◇ **メインビジュアルデザイン発表・東北芸術工科大学との合同記者会見**
[7月27日 会場：東北芸術工科大学]
- ◇ **山形国際ドキュメンタリー映画祭 2017 東京記者会見**
[9月5日 会場：東京芸術学舎外苑キャンパス]
- ◇ **記者説明会**
[9月29日 会場：丹六ビル3F デイリーニュース試写室]
- ◇ **山形国際ドキュメンタリー映画祭 2017 受賞者記者会見**
[10月11日 会場：山形市中央公民館 (アズ七日町) 4Fギャラリー]



マスコミ各社がつめかけた



コンペ作品の傾向を解説



抜き焼き映像も初お披露目



メインビジュアル発表！

テレビ・ラジオCMおよび新聞広告による告知

■テレビCM、ラジオCMを制作し、放送媒体を使って告知を行なった。また、新聞広告による告知活動も行なった。

【テレビCM】

放送期間：平成29年9月30日～10月4日／放送形式：15秒スポット全日／放送回数：80回

□テレビCM映像は東北芸術工科大学映像学科有志によって制作された映像の中から映画祭事務局で審査を行ない、1作品を選定した。結果、土井理紗子さんによる影絵風の映像作品をテレビCMとして使用することに決定した。CMの仕様に合わせ、東北芸術工科大学加藤到教授の指導のもと、修正および調整を行ない、各局に納品した。動物の森の雰囲気柔らかさを醸し出し、好評を博した。



あたたかみのある影絵のイメージ



開催日程を伝える

【ラジオCM】

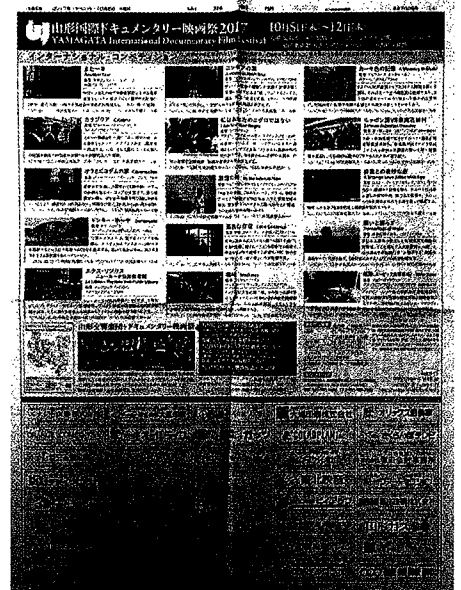
放送期間：平成29年9月23日～10月4日／放送形式：20秒スポット／放送回数：86回

□ラジオCMは県民に親しみやすいように芋煮をネタにしたコントを制作し、リスナーに小気味好笑いで印象を与えつつ、映画祭開催告知を行なった。VigoFMがなくなったことで放送回数が一社分減ってしまっただが、YBCラジオ、FM山形、ラジモン各局ではゴールデンタイムの放送枠を多く獲得でき、効果的なアピールを行なうことができた。

【新聞広告】

掲載媒体：山形新聞 掲載日：10月5日 掲載スペース：全面

□前回同様、今回も山形アドビューロからの提案により、企業協賛広告と一体となったカラー全面広告を掲載した。新聞紙面全面1ページという大きな枠を活かし、山形県民に最も観ていただきたいプログラムであるインターナショナル・コンペティション部門15作品を中心に、作品紹介と上映会場、上映時間を掲載した。映画祭イチ押しの作品群として、作品数が多くてどれを観たらよいかわからないという市民に対して、その鑑賞の手引きとなるものとなったのではないだろうか。その効果は非常に大きいと考える。山形市内の観客からも茶の間やトイレの壁に貼ってどれを見るか考えている、などとの声もいただいている。次回も同様な形で掲載できるよう調整を進めていく。



1ページ全面広告のインパクト！

プレスの映画祭参加について

プレス数：304人（うち海外69人） 【YIDFF 2015 プレス数：322人（うち海外55人）】

■国内外のマスコミ関係者や他映画祭、映画研究者らにプレス申請書を送付し、YIDFF 2017 を取材および研究対象としてもらう目的として、IDカードを発行した。映画祭において、このプレス参加者数が国内外の注目度をはかるバロメーターとなることは常識であるが、今回は前回比で海外プレスの参加が125.6%となり、YIDFF 2015で飛躍的に増加した数値をさらに上回る結果となった。今回も特に海外からの参加が目立ち、人数は過去最多となっている。映画祭終了後の後追い記事により各国マスコミでの露出を果たした。また、国内においても開催期間中には映画祭の記事が連日各主要媒体の紙面を飾り、全国に向け、強く本映画祭をアピールした。



アズ4Fにプレスカウンターを設置



プレス関係者の要望にこたえる



プレス用ビデオブースの管理



受賞者記者会見も設定

J-Morning の開催

■日本作品を海外へ紹介するという本映画祭の趣旨のもと、経済産業省管轄のJ-LOP4の補助を受け、日本作品の海外展開を促進する目的により、交流イベント「J-Morning」を開催した。主要な参加者は、「日本プログラム」上映監督、海外のマスコミ関係者、批評家、映画祭キュレーター、配給会社であり、お互いを引き合わせることで、海外映画祭での上映のための交渉、海外配給のための商談など、本映画祭を切っ掛けとして日本作品が海外進出できるよう、積極的な交流を推進した。その結果、ベルギーのシネマテーク「シネマノヴァ」などで松本俊夫作品などの上映が行われるに至った。



率先して自分の作品を売り込む



著名メディアからの取材を受ける



海外シネマテークの説明を受ける



和やかな雰囲気商談が進む

【映画祭後の日本作品の海外展開事例】

◇ 『ニッポン国VS泉南石綿村』

【台湾国際ドキュメンタリー映画祭、シネマノヴァ（ベルギーの老舗シネマテーク）】

◇ 『創造の発端—アブダクション/子供』 『肉屋の女』

【ジヨグ・ジャカルタ等】

◇ 『薔薇の葬列』 『西陣』

【シネマノヴァ（ベルギーの老舗シネマテーク）】

◇ 『選挙に出たい』

【シネマノヴァ（ベルギーの老舗シネマテーク）】

◇ 『風のたより』

【シネマノヴァ（ベルギーの老舗シネマテーク）】

映画祭グッズの製作

■映画祭グッズを製作した。映画祭とともに山形名産の日本酒を紹介し、山形のPRを行った。

【各種公式グッズ】

No.1 トートバッグ (フレディ・ムーラー、ロックスリー)

No.2 映画祭特製ラベル付き数量限定・映画祭公式日本酒

No.3 アジア千波万波公式Tシャツ

No.4 オリジナルバッジ (フレディ・ムーラー、ロックスリー)

No.5 映画祭特製手作りタグ付き「GEAクッション」

【山形県酒造協会 協賛】

【佐藤繊維株式会社 協賛】

映画祭公式トートバッグについて

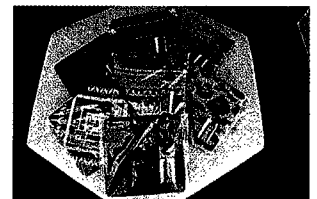
□フレディ・ムーラー特集開催に合わせ、フレディ・ムーラー自筆イラストをプリントしたトートバッグを製作し、販売した。またアジア千波万波開催に合わせ、スペシャルプログラムが企画されたロックスリー監督によるオリジナルイラストをあしらったトートバッグを製作し、販売した。いずれも大人気商品となり、映画祭期間中に売り切れとなった。



トートバッグ

映画祭公式日本酒について

□映画祭に参加した観客に「山形らしいお土産を」とのもてなしの気持ちを形にしたものとして特製の映画祭ラベルがついた公式日本酒を販売した。今回も350ml瓶での販売となった。ギフトラッピングの効果もあり、期間中に全商品完売するに至った。観客からも「いいお土産が出来た」と喜びの声が上がっていた。



おしりが恋に落ちる高級クッション

公式Tシャツについて

□毎回恒例であり、大人気を博しているアジア千波万波Tシャツを今回も製作、販売した。トートバッグ同様、ロックスリー監督のイラストをプリントしたものを製作した。色違い、サイズ違いで複数種類を製作。いずれも各会場で飛ぶように売れた。映画祭公式Tシャツはファンの間でも人気商品とされ、基本的には映画祭期間中にしか購入できないため、希少価値が高まっている。



男山、霞城寿、秀鳳

オリジナルバッジ

□今回はじめてバッジを製作、販売した。フレディ・ムーラー特集にからみ、フレディ・M・ムーラー監督と小川紳介監督とのツーショット写真をプリントしたもの、アジア千波万波にからみ、ロックスリー監督のイラスト5種をつかったもの、などなど、多彩なデザインで製作。安価でお土産として最適だったため、人気が高かった。



かわいい缶バッジ

映画祭特製手作りタグ付き「GEAクッション」

□寒河江市の佐藤繊維株式会社とコラボし、セレクトショップGEAで販売している高級クッションにボランティア有志による手芸品をつけた商品を販売した。お土産用に利用された。



ロックスリーデザインTシャツ

その他の広報宣伝活動

ラジオ出演

■ラジオ局の番組内に山形国際ドキュメンタリー映画祭の専門コーナーを設け、事務局員が出演する形で映画祭の紹介を行った。

【ラジオ・モンスター】

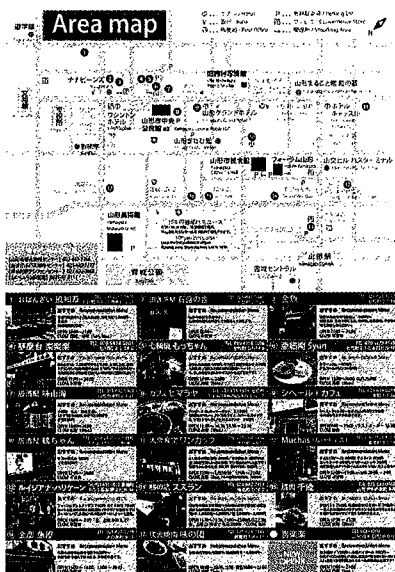
- 毎月第1木曜日 午後1時 「Mon-brun モンブラン」内
「ドキュメンタリーでドキュドキュ」コーナー出演 (約15~20分)
内容：映画祭情報、各種上映会、イベント情報

協力・協賛による広報活動

■各団体、企業の協力および協賛を得て、広報宣伝活動を行った。

【宣伝材料の製作協賛・掲示協力】

- 映画祭公式グルメマップ **【七日町周辺の各飲食店からの広告協賛】**
- 山形市役所駐車場ウィンドウディスプレイ設置 **【山形市によるスペース貸出協力】**

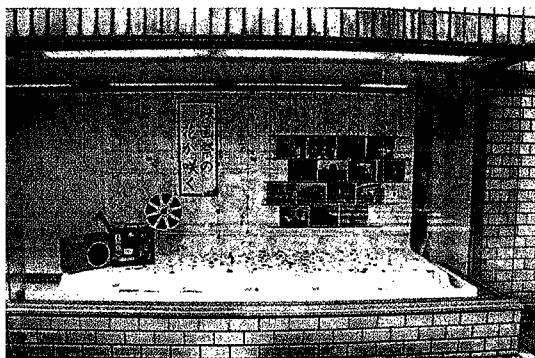


【映画祭公式グルメマップ】

□七日町周辺の各飲食店からの協賛を得てグルメマップを作成し、映画祭ゲスト及び観客に、食事処、呑み処を積極的に紹介した。映画祭の観客が必ず手にするプログラムチラシ裏面をグルメマップにしたことで、非常に高い宣伝効果を発揮した。各協賛店からも「大変良かった」との声をいただいている。主な協賛店は以下の通り。炭火焼肉 味の園/BOTAcffee (ボタコーヒー) /洋食 プルマンサンジャック/田舎茶屋 石路の舎/居酒屋 金魚/オワゾブルー カフェTREE/七輪焼き もっちゃん/カフェ ヒマラヤ/居酒屋 味山海/魚屋 金彦/しべーる+カフェ/Dom Cafe (ドンカフェ) /北海ラーメン/居酒屋 鶴ちゃん/ぶどう酒食堂 バッカナル/味の店 スズラン/屋台 スロウ ジャム/YOGA ME! 山形/カフェ&バー ムーチャス

【市役所駐車場ウィンドウディスプレイ設置】

□映画祭ボランティア有志がアイデアを出し、工作を行った装飾品などを使って、市役所駐車場東側にウィンドウディスプレイを設置した。国際的な映画の祭典を、市民目線に立ったアイデアで視覚化し、山形市役所を訪れる市民、七日町を歩く人々に映画祭開催をPRした。16mmフィルムや映写機などを使って効果的な演出がなされていた。足を止めて眺める人も見受けられた。

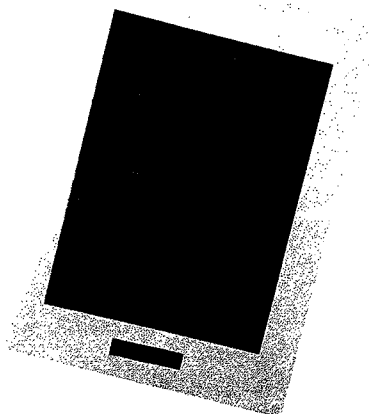
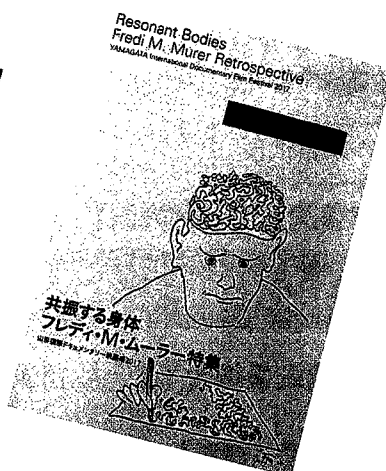


⑨各種出版物の製作と販売

■山形国際ドキュメンタリー映画祭 2017 関連の出版物を製作し、開催期間中より販売を行った。充実した内容の書籍を編纂し、普及することで映画祭への理解者を増やすことを目的としている。

【製作した書籍】

- 山形国際ドキュメンタリー映画祭 2017 公式カタログ [定価：1,200円]
- 山形国際ドキュメンタリー映画祭 2017 各特集プログラムカタログ
 - ◇アフリカを／から観る カタログ [定価：700円]
 - ◇共振する身体フレディ・M・ムーラー カタログ [定価：800円]
 - ◇政治と映画：パレスティナ・レバノン カタログ [定価：700円]
- 山形国際ドキュメンタリー映画祭 2017 公式ガイドブック SPUTNIK [非売品・無料配布]



書籍販売実績 **1,134,840円** (前回比82.1%)

【書籍別販売内訳】

『山形国際ドキュメンタリー映画祭 2017 公式カタログ』	1,200円×544冊	652,800円
『アフリカを／から観る』	700円×151冊	105,700円
『共振する身体—フレディ・M・ムーラー』	800円×204冊	163,200円
『政治と映画：パレスティナ・レバノン』	700円×111冊	77,700円
その他		135,440円

⑩映画祭ボランティアとの連携とリーダースタッフ体制作り

参加ボランティア数 358人 (前回比 103.5%)

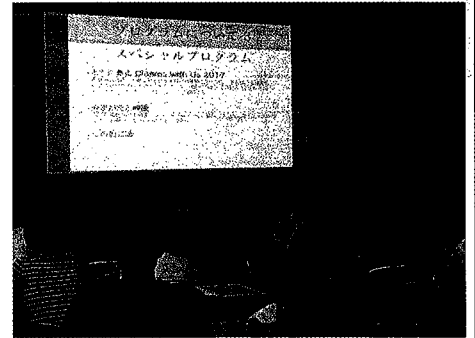
[リーダースタッフ体制：29人]

[高校生ボランティア：64人]

■多くの市民ボランティアの参加を得て、ゲストおよび観客へのきめ細やかな対応を心がけながら運営体制の強化を図った。また募集のためにボランティア説明会を4回に渡って開催した。期間中は一般からボランティアのまとめ役であるリーダースタッフを雇用した。歴代最多の64人の高校生が参加した。

ボランティア募集状況

- ◇第1回ボランティア説明会 [7月9日 (日) 15:00,19:00]
- ◇第2回ボランティア説明会 [7月23日 (日) 15:00,19:00]
- ◇第3回ボランティア説明会 [7月30日 (日) 15:00,19:00]
[会場：山形市市民活動支援センター 高度情報会議室]
- ◇第1回東京ボランティア説明会 [8月2日 (水) 15:00,19:00]
[会場：東京藝術学会 (東京都港区北青山)]



ボランティア説明会の様子

ボランティア参加状況

【ボランティア参加者地域別内訳】

山形市内からの参加者： 234人 (全体に占める割合：65.4%)

- 山形市以外の県内参加者：27人 [内訳：村山市1人 東根市4人 高畠町1人 天童市9人 朝日町1人 小国町1人 米沢市1人 山辺町4人 寒河江市2人 河北町1人 上山市2人]
- 県外からの参加者：96人 [内訳：東京都56人 京都府11人 大阪府3人 宮城県5人 千葉県7人 神奈川県5人 埼玉県4人 岩手県1人 奈良県1人 栃木県1人 鳥取県1人 愛知県1人]
- 海外からの参加者：1人 [内訳：台湾1人]

ボランティア活動状況

会場係 参加者：150人



ゲストサポーター 参加者：47人

東京ゲストサポーター 参加者：14人



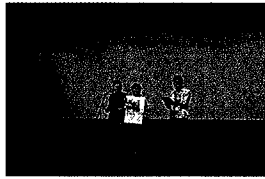
デイリー・ニュース 参加者：43人



香味庵クラブ 参加者：62人



司会進行 参加者：9人



広報 参加者：7人



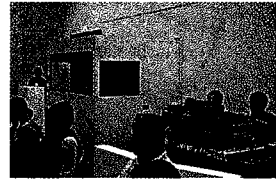
市民賞運営 参加者：12人



その他・本部 参加者：5人



同時通訳機操作 参加者：17人



来場者アンケート集計

■映画祭開催期間中に各会場の来場者を対象としてアンケート調査を行なった。各会場ともに混雑日、平常日に分け、中央公民館3回、市民会館大ホール2回、小ホール2回、フォーラム3・4・5ともに2回ずつ、山形美術館展示室1では2回、美術館展示室5では1回、合計16回にわたりサンプル抽出法を用いて調査を行った。

【来場者アンケート調査の詳細】

アンケート配布枚数：2,986枚

回収枚数：【日本語】476枚

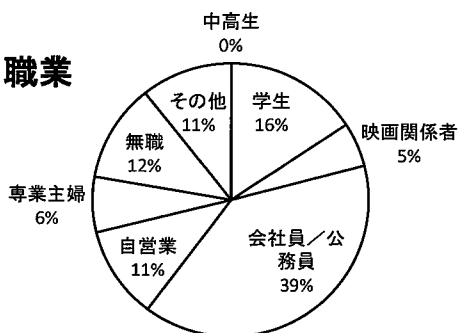
【英語】18枚

合計：494枚

回収率：17%

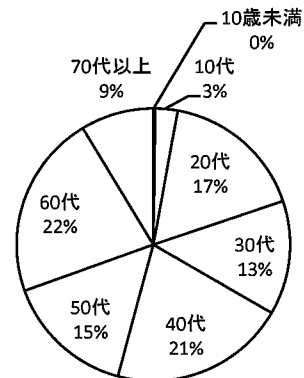
【来場者アンケート結果】

職業

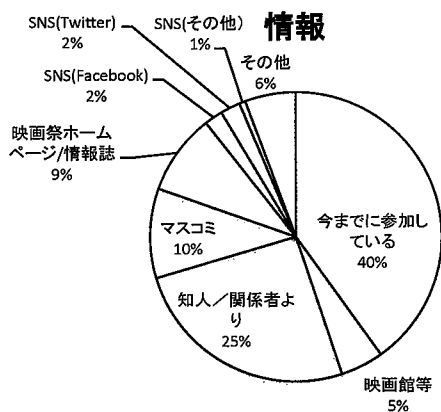


職業別では「会社員/公務員」が最も多く、日中働いている方でも三連休や仕事終わりを利用して、来場していることがわかる。また「学生」の割合が16%となっており、全体で2番目に多い客層であることがわかる。近年大学生による団体鑑賞が増加傾向にあることがあらわれていると言えよう。映画関係者は5%程度であり、一般の参加者がほぼ全体を占めている。

年齢

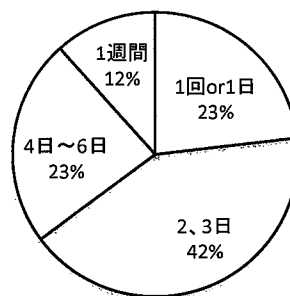


年齢別に見ると、60代が最も多く全体の22%を占め、次いで40代となっており、前回の2015年開催から8%も上昇し、際立った増加傾向を示している。また30代も3%上昇し、働き盛りの忙しい観客層もしっかりと獲得できていることがわかる。しかし、10代の参加を見ると、3%に留まっており、高校生以下の鑑賞を促す工夫が必要であることがわかる。

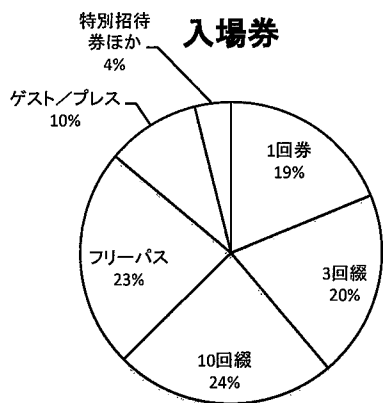


開催情報取得では、これまで同様リピーターが多いことがわかる。全体の割合は前回の2015年開催からほとんど変わっていない。一部において、映画館等からの情報取得が2%減少しており、代わりにSNSが若干上昇している。しかしながら、これは明確に意味のある変動とは言い難いため、情報取得の方法は2年前と全く変わっていないと推定できる。

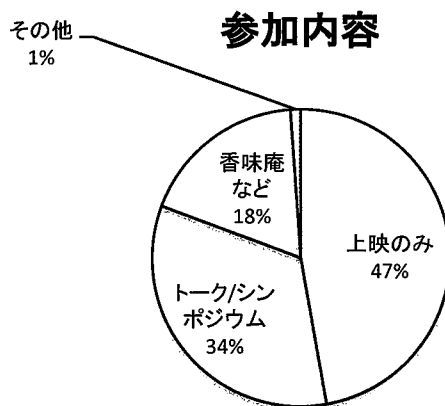
参加日数



参加日数についての全体の割合は2015年開催時と全く変わっていない。「1回or1日」と「4日～6日」の割合が1%上昇、代わりにその他の値が1%減ったが、目立った変動は見受けられない。ただ、2013年開催時のデータと比べると、2015年に9%増加した「1日or1日」が今回更に増加したことは、初めての参加、あるいはライトユーザーを多数獲得できたと言えるのかもしれない。

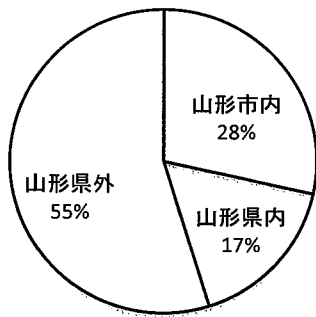


前年に比べ、今回はフリーパス券購入者の増加が見られ、3%上昇し全体の23%という結果となった。また10回綴券が最も多く24%となっており、フリーパス券と合わせると47%、全体のおよそ半数が複数鑑賞を念頭においた参加をしていることがわかる。



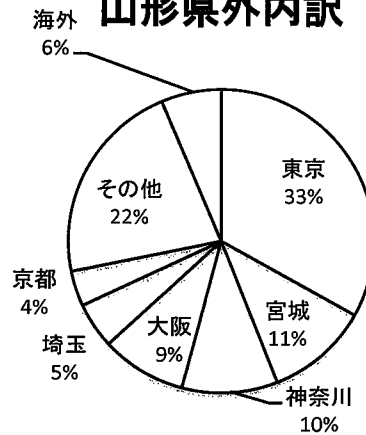
参加内容については、前回2015年に比べ、「上映のみ」の割合が減少し、「トーク/シンポジウム」が増えるという結果となった。映画作品の鑑賞だけではなく、監督や識者との対話を重視する客層が多かったことがうかがえる。

地域



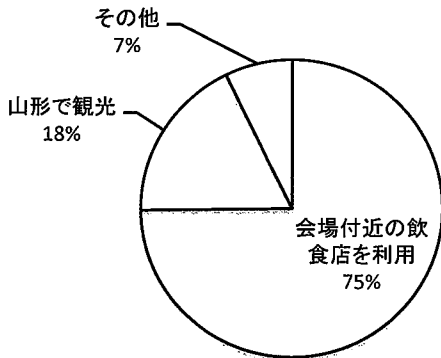
地域別では山形市内と山形県内を合わせた割合が45%であった。前回同様、県外観客との割合はおよそ半分をキープしている。90年代から2000年代初頭に示された10%から17%というデータと比較すると、近年は安定して山形からの来場者を獲得することができている。

山形県外内訳



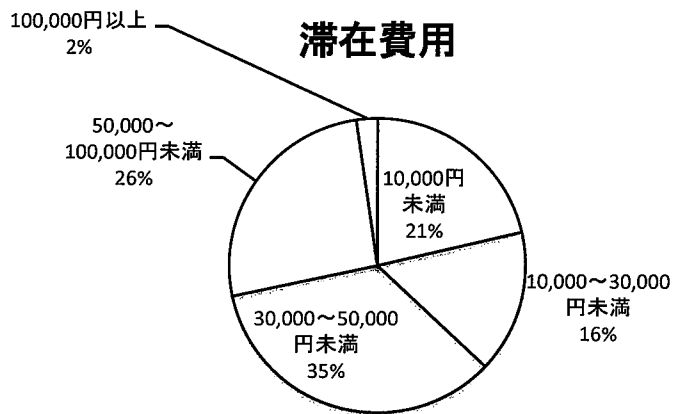
県外からの観客の内訳をしてみると、首都圏からの参加が多いことは以前のものであるが、注目すべきはここ数回の宮城からの観客の増加傾向である。今回は東京に次いで第2位の割合を獲得した。隣県ということで、地の利を活かした広報展開が期待できる。次回はより戦略的なPRを仙台市を中心に行っていく必要があるのではないだろうか。

滞在中予定



映画祭参加以外での山形滞在中の予定を見ると、「会場付近飲食店を利用」が全体の7割を占め、前回よりも3%上昇し、75%という結果となった。自由筆記欄での来場者からの声にもあらわれているとおり、「せっかく山形に来たのだから、山形のうまいものを存分に食べたい」という欲求が強いことがうかがえる。今回実験的に行ったマルシェを筆頭に、より山形の「うまいもの」をPRしながら、映画祭とともに山形の魅力を発信していくことが、インバウンド効果に繋がると確信する。

滞在費用



滞在費用については、「3万円以上5万円未満」「5万円以上10万円未満」の観客が格段に増え、前回に比べて6%以上の伸びを示した。「参加日数」については例年同様であり、変化が見られなかったことを鑑みると、宿泊日数増加によるものではなく、その他の支出、つまりは飲食やお土産にお金を使っていることのあらわれと推測することもできるのではないだろうか。これは「滞在中予定」の「飲食店の利用」が増加傾向にあることとも合致している。近年、映画祭開催による観光促進効果を狙ったいくつかの動きが功を奏した結果である。

来場者アンケート自由筆記部分より一部抜粋

(問) 山形国際ドキュメンタリー映画祭へのご意見、ご要望（観光、ホテル、お土産情報など）、メッセージをお願いします。

【意見・要望】

◆情報について

- ・ HPをもう少しわかりやすく、充実させてほしいです。(30代会社員/公務員、東京)
- ・ チラシプログラムで見たい映画を探すのですが、題名だけではわからない映画もかなりあり、詳しい内容はプログラムを買えば良いのでしょうか。すべて見るわけでもないのに、何に関する映画か程度の情報だけでもあればうれしいです。(60代無職、山形市)
- ・ チラシ?頂いたのですが「何を見ようかなー」と見ても監督名、国、内容が一覧でなく(ICはわかりやすかったです)、ちょっと見にくかったです。他はボランティアさん、監督さん他皆ホスピタリティと刺激に満ちていてとてもhappyでした。もっともっと沢山の方に触れていただきたいですね。(40代その他、栃木)
- ・ どうしたら山形の人たちにもっと参加してもらえるのだらう…。こんなにすばらしい映画祭なのに。ツイッターなどの活用をもっと前からもっと多くなっていたらよかったのと思った。公式ツイートもあまり広がっていない印象。(60代自営業、山形市)
- ・ 県外にももっと広報するとよいのではないのでしょうか。県外参加者の割合によっては、翌年、大都市で巡回上映すると収益があるのではないのでしょうか。(60代図書館職員、東京)
- ・ カタログに載せる地図をもう少しこまかくしてほしいです。映画祭以外の基本的な街の情報も載せてほしい。HPで宿の情報を早めに教えてほしい。(40代会社員/公務員、北海道)
- ・ パンフレットに音声フォーマットを入れてほしい(ステレオ、モノ、5.1chなど)。(40代映画関係者、浦和)
- ・ コンペティションの映画の説明は新聞の切り抜きで見られましたが、他の作品の説明も新聞で出してほしい。どんな作品かまったくわからない。10回券、東根のフォーラムで購入しましたが、タイムテーブルがなく、計画が立てられなかった。チケット一緒にもらえると嬉しいです。(60代自営業、東根市)
- ・ 膨大なプログラムがあるが、情報の伝え方に関して甚だ疑問です。個々の詳しい情報がわからない。全体も把握しにくい。プログラム、HPどちらを何回見ても、非常に残念な状態です。(50代会社員/公務員、山形市)
- ・ 毎回、参加したいと思いつつながら、やりすごしていたので、今回は無料上映とはいえ見せて頂いてよかったです。次回はもっと作品を鑑賞したいと思います。きめ細やかなスタッフの方々の運営に感謝します。ひとつ思うのはリーフレットの文字が小さく、上映のタイムテーブルがわかりにくい。(50代会社員/公務員、山形市)
- ・ グリーンハウスの証言の上映のみ参加しました。無料上映なのを知らず、チケットはどこで買えばいいのかネットで調べたりしました。HPをみましたが、トークショーが無料なのか、上映とセットで無料なのか、はっきりしませんでした。(50代専業主婦、山形市)
- ・ カフェや芋煮のおふるまいなんかがあり、スタッフの方たちも親切で丁寧でいい映画祭だと思います。もっと気軽に参加できるイベントがあってもよいのかなと…。全上映作品をいちいちチェックするのがちょっと大変だったので、一覧に1シーンの写真を入れてくれると目にかかります。(40代パート、仙台市)
- ・ 今回のパンフレット、タテ2つ折りにすると英字と線画しか見えませんので、地味で目立たずドキュメンタリー祭のものかどうか解りづらいですし、最初は外国人向けの英語版かと思いました。デザイン上ひと工夫ほしいです。(40代会社員/公務員、寒河江市)
- ・ もちろんメディア等を通じての映画祭の宣伝はなされていることは大事なことです、アズ正面の入り口に、宣伝モニターのような映像を設置するというのはいかがでしょうか。(60代会社員/公務員、山形市)
- ・ 山形駅に映画祭のチラシはあるのでしょうか? 置いて欲しいです。(60代会社員/公務員、岐阜)
- ・ メディアでの特番が少ないような気がする。地元のテレビでも関連のプログラムを放送してほしい(20代会社員/公務員、上山市)
- ・ ホームページでの作品上映日ももう少しわかりやすくしてほしい。(40代会社員/公務員、岩手)
- ・ 個々の映画のあらすじや内容について、事前にウェブサイトで得られる情報をもう少し多くして欲しい(旅程を組むときの参考にしたい)。会場で公式カタログを見て初めて面白そうに思える作品がかなりある。(40代会社員/公務員、神奈川)
- ・ 映画祭HPに上映素材の記載がないのは不満。カタログには載っているのだから開催初日以前に情報は揃っているはず。フィルムで作られた作品をProRes画質で観るのはがっかりする。(50代会社員/公務員、東京)
- ・ JR山形駅にwelcomeの大きな看板!(40代アーティスト、東京)
- ・ webサイトに早めにホテルを取ったほうが良いともっと大きく書いて欲しいです。海外からや国内でも初めて参加される方の中で泊まる場所がないという話を映画祭前日や中日に聞きました。(30代学生、東京)

- ・ スプートニクが初日でなくなっているので2日目以降も入手できるようにしてほしい。(40代自営業、八王子)
- ・ Youtubeの再生回数が非常に少なく、きちんと広報が行われているのか心配になりました。ラフカットの司会者の喋り、きちんと英訳されるよう、はっきりした方がいいと思います。(40代自営業、東京)
- ・ 次回は監督や制作関係者へのインタビューをライブ配信してもらいたい。(20代会社員/公務員、上山市)
- ・ 市が全体となってもっと広く広報できないものでしょうか。JRなどにも推してほしい。(40代会社員、山形市)
- ・ HPがとてもわかりづらいので改善してほしい。(40代会社員/公務員、福島)
- ・ 中央(東京、横浜)へのPRが足りない。(70代以上無職、神奈川)
- ・ フリーパス券を購入しましたが、160本上映されるということで見たくても見れない映画たくさんあります。映画祭終了後もインターネットで見られるようにしてください。(20代その他、札幌)

◆会場

- ・ 告知をもっと大きくしてほしい。会場でも日本語、日本語以外でもアナウンスが必要では？(40代会社員、山形市)
- ・ 上映開始から20分過ぎたら入場不可にしてほしい。(30代会社員、山形市)
- ・ 市民会館大ホール、中央公民館ホールが寒くて辛かった。(50代会社員、関西)
- ・ 満席で入場できない時の対応を考えてもらいたい。時間調整がうまくいってない。(60代その他、県外)
- ・ 入場時の整列時間を極力少なくしてほしい。(60代無職、山形市)
- ・ 入場時、会場の足元が暗く、危機感を持つ。(70代以上無職、茨城)
- ・ 無料の駐車場があるといい。(40代会社員、西村山郡)
- ・ 車イス利用の人への情報(いすの確保など)あってもいいのではないか。(60代無職、東根市)
- ・ 質疑応答では「質問だけ簡潔に」と強調してもらいたい。(40代会社員、山形市)
- ・ 1日に多く観るのもっとイスの良いものがほしい。(60代会社員、富山)
- ・ 同時通訳イヤホンがガーガーになるので修繕してください。(会社員、関東)
- ・ 整理券方式にできないか？(60代その他)
- ・ 自販機の水だけが売り切れになっているので、補充をこまめにする、または水を販売するなどしてほしい。(不明)
- ・ 前の椅子と後ろの椅子がかぶらないようにジグザグに配置したほうがいい。(30代自営業、香港)
- ・ 市民会館小ホールは見づらいので他の会場を考えてもらいたい。(30代会社員、山形市)
- ・ 同時通訳時、通訳の言葉がおかしい時があり、聞き苦しい。「秘密うら」「おお規模」など。(60代会社員、富山)
- ・ フォーラムで見た映画で立ち見になり、階段に座ってみました。もっと広い会場を用意してほしい。(60代専業主婦、村山市)
- ・ 上映作品は分かれてほしい。たとえば、日本語会場、中国語会場、英語会場というような形で。(20代学生、東京)
- ・ 美術館のアフリカ特集の民族衣裳の展示はロビーにマネキンを置けばいい。(40代その他、天童市)

◆上映

- ・ もっと効率的に観られるように工夫願いたい。(70代以上自営業、東京)
- ・ スケジュールに余裕が欲しい。(70代以上自営業、東京)
- ・ 上映後のトークの終了予定時刻を明記して欲しい。上映前後に告知して欲しい。(60代学校講師、青森)
- ・ 全ての作品に英語字幕があればいいのに。(30代映画関係者、台湾)
- ・ 新幹線の時刻表を意識したプログラムだと嬉しい。会場でのランチ事情何とかして。(50代自営業、東京)
- ・ 英語字幕が正しくない作品がいくつかあり、鑑賞の妨げとなった。(30代映画関係者、マレーシア)
- ・ 朝イチの上映はトークの時間を考慮すると、8時半や9時に開始するのがよい。(30代映画関係者、台湾)
- ・ スタートが遅い！ 午前中に2本は観たい。(埼玉)
- ・ コンペ作品、2回のうち1回は連休に上映してほしい。(40代自営業、東京)
- ・ 質疑応答がダルい。3カ国語はやりすぎ。(30代自営業、大阪)
- ・ 2年に1回を毎年開催にして上映作品をバラしてはどうか。(東京)
- ・ 1つの映画の上映回数を増やしてほしい。駐車場代の補助がほしい。(30代会社員、山形市)
- ・ 同時通訳ではなく、字幕をつけるなど努力してほしい。(40代会社員、東京)

◆交通・宿泊

- ・ ウィークリータイプの宿泊先がほしい(民泊など)。(50代自営業、東京)
- ・ ホテルまでのアクセスが映画上映時間とマッチせず、学生には費用がかかりすぎる。(10代学生、京都)
- ・ ホテルが取れない。(複数)
- ・ 会場への案内表示が欲しい。(70代以上その他、京都)
- ・ テント村や床にダンボールを敷いて寝袋で宿泊できる場所があるといい。(60代団体職員、新潟)
- ・ 地元の人によるお店等の情報があってよかった。(50代自営業、東京)
- ・ 早めに上映スケジュールがわかれば、ホテルも取りやすい。(40代会社員、神奈川)

◆観光・飲食店・お土産

- ・観光案内を配布してほしい。(30代学生、東京)
- ・おいしいご飯屋さんをもっと知りたい。(20代大学生、神奈川)
- ・周辺飲食店等の割引サービスがほしい。(20代大学生、神奈川)
- ・温泉情報が欲しい。(20代学生、京都府)
- ・映画祭の機会に山形の食品を食べる、送る機会を増やしていいのでは。農業組合とのタイアップ。(60代団体職員、福岡県大野城市)
- ・その期間限定で飲食も映画の中に出てくるものとか、タイトルに関したものとかあったらいい。(50代専業主婦、酒田市)
- ・会場近くで簡単に食べられる方法が欲しい。(70代以上、仙台)
- ・外食が高い。安い店の告知が欲しい。(50代会社員、神奈川)
- ・日・祝で飲食店が休みのところが多く、食事難民になった。(60代無職、大阪)
- ・お土産を買うことができるのが駅なかだけで困った。(30代無職、東京)
- ・循環バスを専用に出してもらいたい。(30代会社員、埼玉)
- ・山形市全体はベジタリアン・ビーガン対応ができる店が非常に少ない。(30代会社員、東京)
- ・香味庵の横のお店も活用して、路上にあふれて立って飲む人たちが、より交流できるスペースを考えてもらいたい。(30代映画関係者、東京)
- ・レンタサイクルが日をまたいで使えるといい。返却時間が早すぎる。(複数)

◆ボランティア

- ・高校生ボランティアがよかった。もっと多くの学生が関わってくれたらと思う。(複数)
- ・多くのスタッフ、ボランティアの方々が自然にどんな人でももてなしてくださる状況がとても気持ちよかった。(複数)
- ・ボランティアの人々との関わりが薄くなってきている。以前の方が良かった。(70代専業主婦、神奈川)
- ・公民館での高校生の司会は素晴らしい企画だと思いました。(60代無職、大阪)
- ・若い人たちが参加していることに好感を持った。(70代以上無職、兵庫)
- ・とてもホスピタリティあふれる対応を各会場でしていただき、驚きました。映画祭の理念や目的をボランティアの各々も理解されているからこそだと思います。今のスタイルを続けてもらいたい。(30代会社員、東京)
- ・高校生ボランティアいいですね。中学生も「学校行事」とか「総合学習」で参加すればいいのに。(50代公務員、山形市)

◆その他

- ・トートバックをもっと用意してほしい。(50代会社員、関西)
- ・県内のドキュメンタリーをもっと観たい。DVD化してほしい。(50代会社員、村山市)
- ・フリーWiFiがあるといい。(30代会社員、山形市)
- ・日中、他の参加者と交流するスペースがないのが残念。(20代学生、東京)
- ・街の雰囲気がちよっとね…。(20代大学生、中国)
- ・市や県との観光部局との積極的なコミット。(30代会社員、山形市)
- ・朝一のヨガが意外とよかった。(30代会社員、東京)

◆感想

- ・素晴らしい映画祭。ずっと続けてください。(複数)
- ・この映画祭大好き。みなさんががんばってください。(複数)
- ・もっといろいろな国からの作品を観たい。(60代専業主婦、福岡)
- ・普段刺激のない一地域に住んでいながら世界の一端に触れられるような貴重な場。(40代自営業、村山市)
- ・運営の努力の集まりが山形市を国際色豊かに、県外からの皆さんに足を運ばせている。(40代会社員、山形市)
- ・作品内容の濃さ、運営の雰囲気の良さに満足。(40代会社員、新潟市)
- ・グリーンハウスの映像、映画館とコーヒーの香り、記憶、映画文化の豊かさを感じられた。(40代その他、山形市)
- ・この映画祭は、映画について、プロも観客も話をするのが魅力。(40代会社員、山形市)
- ・ドキュメンタリー作品とは思えないもの(「肉屋の女」とか)はいかがなものか。とてもがっかりした。(60代パート、千葉)
- ・地域、市の活性化に大変貢献しています。(70代自営業、山形市)
- ・5歳、小学4年生の子ども二人と一緒に観ました。面白かったと言っていました(「ドンキー・ホーテ」)。(40代会社員、山形市)
- ・知人(外国人)日本在中の方が以前のこの映画祭を機に初めて来県されて、その後、出羽三山や各地を訪れ、山形県の人を愛し、SNSで発信してくれていて、私も今回来了。素晴らしい。(60代、西置賜)

- ・山形市民にもっと広がればと思います。(50代会社員、山形市)
- ・観たい映画が多くて時間が足りません！(20代学生、神奈川)
- ・みなさんのご助力で、利用・鑑賞しやすくなっています。(40代自営業、山形市)
- ・年々規模が大きくなって内容も充実してきている。肥大することなく質の高いイベントとして末長く続けていただきたい。(60代会社員、天童市)
- ・いつも気配りの利いた運営に感心しています。(60代会社員、北海道)
- ・抹茶が飲めたの、結構感動しました。(20代大学生、東京)
- ・世界が多様な人々が暮らしていると実感できる映画祭でいい。(40代団体職員、神奈川)
- ・年々全国区になる反面、山形でやっていることが県人に知られていない。県内でも多様な来場が欲しい。(60代無職、酒田市)
- ・作品のクオリティの高さと熱心さに驚きました。(30代映画関係者、京都)
- ・世界一のドキュメンタリーフェスティバル！ 作品のセレクションも抜群！ 地域住民と映画の専門家との連携が素晴らしい！(40代映画関係者、韓国)
- ・2年に一度の心の糧。(60代無職)
- ・持続力に感動しました。作品はどれもレベルが高く、ふだん街中の映画館で上映されないものなので、十分堪能し、かつ深く考えさせられました。(70代以上自営業、東京)
- ・山形における貴重な生の国際文化交流の場、そして平和をみんなで考える貴重な現在をありがとうございます。この映画祭に参加したことのない友人を誘えたいし、楽しんでほしい、興味を持っていただきました。(20代自営業、上山市)
- ・ドキュメンタリーを見ることでいろいろと勉強し、自分たちの未来について常に考える習慣がつくようになっていきます。(40代会社員、東京)
- ・20年以上通っていますが、毎回、素晴らしいと感動しています。2年分の元気をいただく機会に感謝しています。それというも、世界中のエネルギーと、作る、支える人々の英知の集結があるためと感じています。(50代自営業、東京)

映画祭上映作品の一般公開

■インターナショナル・コンペティションにて日本初公開となった作品について、映画祭開催後に5作品が一般公開のために配給会社管理となった。この内、『私はあなたのニグロではない』、『エクス・リブリス—ニューヨーク公共図書館』、『機械』については映画祭開催前に既に配給がついていたものであるが、あとの2作品は映画祭での上映をきっかけとして配給・劇場公開が決まった。

【一般公開作品】

『また一年』 配給：サニー・フィルム 公開日未定

『オラとニコデムの家』 配給：ムヴィオラ 公開日未定

『私はあなたのニグロではない』 配給：マジックアワー 2018年5月公開予定

『機械』 配給：IVC 公開日未定

『エクス・リブリス—ニューヨーク公共図書館』 配給：交渉中 公開日未定

『カーキ色の記憶』 配給：アップリンク 2018年4月公開

■アジア千波万波部門で日本初公開となった作品について、映画祭での上映後、1作品が一般公開のために配給会社管理となった。

【一般公開作品】

『あまねき調べ』 配給：ノンデライコ 公開日未定

平成29年度売上実績 1,234,192円 (前回比73.6%)

■映像文化の推進を目的として、県内外各地に向けて自主上映の活性化を働きかける営業活動及び請負による映写業務等映画上映に関わる業務を展開した。また、そこでの関係の構築を通して、映画祭の広報宣伝を含めたPR活動を行なった。本年度は映画祭開催年であったため、担当者が本事業に関して積極的営業活動を行なうことができず、前年度を大きく下回った。前回映画祭開催年同様、赤字決算となった。今後は、初期投資が利益を生産していくような、マンパワーに依存しない形での展開を構築していく必要があるだろう。

(1) 上映会事業

■映画祭の認知度向上を目指して行なう上映会活動により収益を生み出す動きを作ったが、連携団体との交渉により予算の関係で売上計上とはならず、無料上映会が行われるのみとなった。

□詳しくは、[1] 山形国際ドキュメンタリー映画祭2017の開催「イベントの開催」を参照

(2) 映写業務

■所有する機材やスタッフの技術力を活かし、有料にて映写業務を請負った。

□映写請負業務件数：11件

(3) 上映サポート事業

■話題性の高い日本のドキュメンタリー作品などを県内各地に紹介し、上映促進をサポートした。また、上映会を設定した箇所については設定手数料を受け取った。

□上映会設定数：6件

(4) 映像ソフト・機器普及事業

■全国の視聴覚ライブラリーは全て解体しており、また交通安全関連も全てウェブ動画に移行しているため、卸元の業者は商売が成り立たず事業撤退している。唯一、DVDコピー役務を実績とした。

□映像ソフトの販売：1件

○主な取引先：山形大学人文社会科学部

(5) その他

■映写機およびプロジェクタ等の機材の修理、メンテナンスを有料にて行なった。

□機材修理・メンテナンス件数：2件



35mm映写機による上映



映写は反射神経と俊敏さが命



プロジェクタによるビデオ上映もやってます

[3] 上映会・鑑賞会推進

(1) 市民・県民の様々な年代層に対する、所蔵作品を中心とした鑑賞機会の創出

金曜上映会

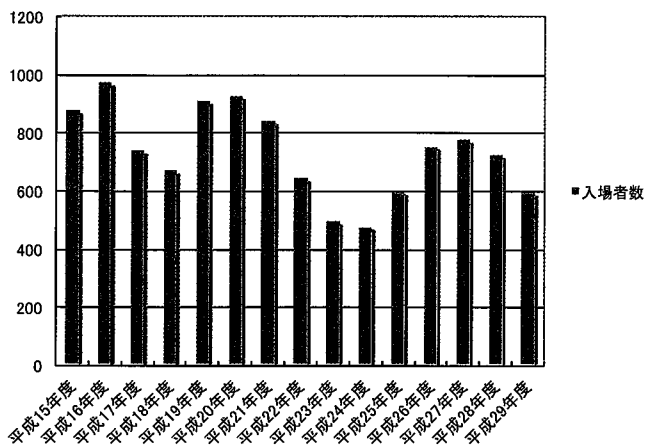
■山形ドキュメンタリーフィルムライブラリーを会場とし、映画祭所蔵作品を始め、一般的には鑑賞機会が少ない作品の上映を行ない、市民県民に対して貴重な映像に親しむ機会を設けた。また、金曜上映会出張版として「やまがた市民映画学校」も開催した（非会員も入場可）。

□月2回金曜 計21回開催（映画祭開催のため9月は1回、10月は休映）

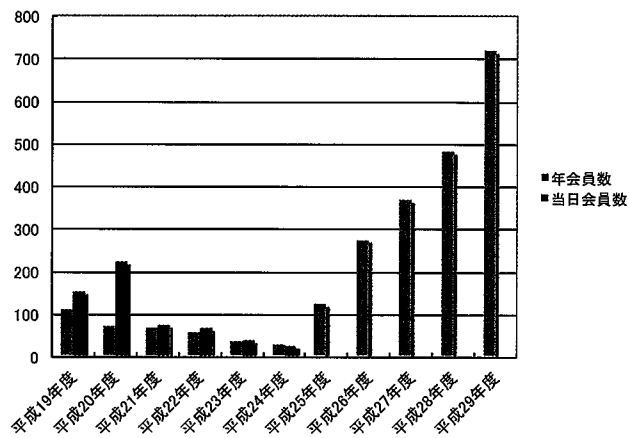
年間入場者数 **595人**（前年比 82.3%）

会員数 **718人**（前年比 148.9%）

金曜上映会



金曜上映会会員数



	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度
入場者数	874	971	736	663	908	925	840	643
	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	
入場者数	493	475	596	751	775	723	595	

	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
会員数	103	72	69	55	35	30	123
当日会員数	153	223	75	66	39	26	当日会員廃止
	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度			
会員数	274	368	482	718			
当日会員数	当日会員廃止	当日会員廃止	当日会員廃止	当日会員廃止			

開催日	タイトル・上映作品	入場者数
4月15日	〈サヴァイヴアル8〉『8mmフィルム作品/山形まなび館土曜出張版』出品者 [川口肇、加藤到、黄木可也子、黄木優寿] 来場 	23人
4月21日	〈福祉と映画〉『鳥のようにーラ・ドゥヴィニエール』『天使の家で』	10人
5月19日	〈踊るバルセロナ〉『ジプシー・フラメンコ』	38人
5月26日	〈フィルムが記録した時代〉『蛇の皮』『加速する変動』	43人
6月9日	〈闘いと祈り〉『私の非情な家』『七度目の祈り』	23人
6月23日	山形市創造都市推進事業やまがた市民映画学校×金曜上映会出張版 〈懐かしい山形とシネマ通り〉『四季のたより』ほか 会場：郁文堂書店	49人
7月14日	〈いつもそこにあるもの〉『いつもそこにあるもの』『家族のかげら』	34人
7月28日	〈旅する視線〉『わたしはまだデリーを見ていない』『井戸の上の眼』	26人
8月18日	山形市創造都市推進事業やまがた市民映画学校×金曜上映会出張版 〈懐かしい山形とシネマ通り〉『私たちの施設』ほか 会場：郁文堂書店	22人
8月25日	〈YIDFF 2017 をより楽しむために 1〉『一緒の時』『たむろする男たち』	32人
9月8日	〈YIDFF 2017 をより楽しむために 2〉『飛行機雲 (クラーク空軍基地)』	22人
11月10日	〈アフリカ：カメルーン〉『アフリカ、お前をむしりとる』	11人
11月24日	〈人生は舞台だ〉『テキサス・テナー』『ハイウェイ』	29人
12月8日	〈土本典昭監督傑作選〉『水俣—患者さんとその家族— (完全版)』	18人
12月22日	〈女たち、彼女たち〉『女たち、彼女たち』	24人
1月12日	〈YIDFF 2017 アンコール 1：スイスと移民・難民〉『カラブリア』『要塞』	29人
1月26日	〈YIDFF 2017 アンコール 2：自我との奇妙な恋〉『自我との奇妙な恋』	24人
2月9日	〈小川紳介監督と学生運動〉『圧殺の森 高崎経済大学闘争の記録』	27人
2月23日	〈YIDFF 2017 アンコール 3：孤独な存在〉『孤独な存在』『フラッシュバック』	53人
3月9日	〈YIDFF 2017 アンコール 4：ニンホアの家〉『ニンホアの家』『思いやりの話』	36人
3月24日	〈「ともにある 2017」特別上映会：震災と「地域映画」の未来〉土曜版 三好大輔監督来場 (1回のみ) 	22人

山形大学図書館上映（不定期）

■山形大学との協力関係のもと、学生、教職員、周辺住民を対象として映画祭所蔵作品の上映会を行なった。本年度はシアタールームの空き状況がなく、図書館事務と話し合いのもと、図書館での上映会を断念したが、代わりとして人文社会科学部の今村真央先生からご協力をいただき、国際交流サークルの学生たちと共にリティ・パン作品上映会を開催した。上映後、ミャンマー国境付近とカンボジアを専門とする今村先生と学生たちとの意見交換がなされ、作品をより深く理解する機会となった。今後も継続して同様の上映会を行ないたいとの申し出をいただいた。

開催日：2017年4月3日【月】

会場：山形大学人文社会科学部1号館203教室

参加者：12名

上映作品：『さすらう者たちの地』、『アンコールの人々』、『紙は余燼を包めない』

東日本大震災被災者を対象とした無料上映会

■東日本大震災で被災した方々に「映画」を無償で届ける活動を行なった。当方を含む、趣旨に賛同した団体で構成する「シネマエール東北 東北に映画を届けよう！プロジェクト」として、福島県を山形県映画センターと共同で担当。大手配給会社の協力のもと『ポケットモンスター』シリーズなどの娯楽作品の上映会を開催した。

総入場者数 603人

上映会件数 5件

開催日	開催市町村	会場・上映作品	入場者数
9月13日	福島県会津若松市年貢町	年貢町団地1号棟集会所 『男はつらいよ 柴又より愛をこめて』	20人
9月13日	福島県会津若松市白虎	白虎団地集会所 『男はつらいよ 柴又より愛をこめて』	11人
11月19日	福島県南相馬市原町	朝日座 『シン・ゴジラ』	168人
2月16日	福島県相馬市	はまなす館 『劇場版ポケットモンスター キミにきめた！』	250人
3月20日	福島県南相馬市	ひばり生涯学習センター 『劇場版ポケットモンスター キミにきめた！』	154人



県内各地での山形国際ドキュメンタリー映画祭 2017 アフターイベント

■「世界のリアルに触れよう！」と題して、山形国際ドキュメンタリー映画祭 2017 で招聘した映画監督等を山形県内の各所に派遣し、映画上映や講演を行なうとともに各地の若者や地域の方々との生の交流を行なった。平成29年度庄内銀行ふるさと創造基金助成。クラウドファンディング活用。

実施内容

①山形市 対象：山形県立山形聾学校 約50名

【日程】10月11日 会場：山形県立山形聾学校

□ [ゲスト] 今村彩子（映画監督、聾者）、手話通訳者2名

【内容】コミュニケーションの大切さを講演、質疑応答、映画は前日鑑賞。

②北村山郡尾花沢市 対象：尾花沢市玉野小学校 全校児童70名

【日程】10月12日 会場：尾花沢市玉野小学校

□ [ゲスト] イグナシオ・アグエロ（映画監督、チリ）、加藤到（東北芸術工科大学教授）、通訳1名

【内容】パラパラ漫画・ゾートロープの制作、上映と講演、参加小学生との対話。

③鶴岡市 対象：庄内地区の市民 約20名

【日程】10月12日、13日 会場：鶴岡まちなかキネマ、羽黒山

□ [ゲスト] アヌシュカ・ミーナークシ、イーシュワール・シュリクマール（映画監督、インド）、通訳1名

【内容】『あまねき調べ』上映とトーク、質疑応答。13日羽黒山、新庄まつり山車見学。

④西置賜郡小国町 対象：小国町民 13名

【日程】10月12日、13日 会場：旧小国町小玉川小学校

□ [ゲスト] ロックスリー（映画監督・イラストレーター、フィリピン）、通訳1名

【内容】イラスト共同制作、映像ワークショップ、13日は小国ブナ林散策交流。

⑤寒河江市 対象：一般市民 40名

【日程】10月12日 会場：GEAレストラン [0053]

□ [ゲスト] ピエール＝フランソワ・ソーテ（映画監督、スイス）、通訳1名

【内容】『カラブリア』上映と監督トーク、質疑応答。

⑤山形市 対象：曹洞宗人権研修東北大会参加僧侶 40名

【日程】10月12日 会場：山形国際ホテル

□ [ゲスト] アンナ・ザメツカ（映画監督、ポーランド）、通訳1名

【内容】『オラとニコデムの家』上映と監督トーク、質疑応答。

県外地域

□東京：【フランス・ドキュメンタリー映画 その遺産と現在】10月13日【金】

アンスティチュ・フランセ東京

□東京：【シリア映画『カーキ色の記憶』上映会+監督トーク】10月13日【金】

早稲田大学戸山キャンパス

□京都：【シリア映画『カーキ色の記憶』上映会+監督トーク】10月20日【金】

京都大学吉田南キャンパス



ロックスリー氏とワークショップ



玉野小学校での講演と上映の様子



曹洞宗の僧侶の方々との交流

(2) 青少年に対する映像教育の推進

映画教室・ワークショップの実施

山形市立図書館市民講座「ドキュメンタリー映画祭と映像あそびの現場から」

開催日：2018年2月24日【土】 講師：黄木優寿

会場：山形市立図書館 主催：図書館ボランティア「小荷駄のみどりから…」、山形市立図書館

参加者数：15人

■映画祭と映像制作ワークショップについて、成果映像を交えながら講演した。今後ワークショップ開催を検討したいとの申し出を複数いただいた。

山形市創造都市推進事業
第8回 子どもの映画教室
手がきフィルムで映画をつくろう！
3月21日(水) 13:00-16:00
山形ドキュメンタリーフィルムライブラリー
(山形ビッグウイング3F)
【お申し込み】・とうめいフィルムに色をぬりけりつけて「えいぞう」と「おと」をつくってみよう！
フィルムライブラリーや映画祭もなんげんじょう！
【対象・定員】小中学生 先着15名
(申し込み時 定員を超えてはご参加いただけません)
【保護者の見学】保護者の見学は自由ですが参加も歓迎です
【参加費】ひとり500円(材料費)
【申込み・問合せ】しめきり：3月12日(月)
山形国際ドキュメンタリー映画祭事務局
ph:023-656-4480 毎日電話受付 012-655-1015(山形ドキュメンタリーフィルムライブラリー)
主催：一般財団法人山形コンベンションビューロー、認定NPO法人山形国際ドキュメンタリー映画祭

山形市創造都市推進事業連携

第8回 子どもの映画教室「手がきフィルムで映画をつくろう」

開催日：2018年3月21日【木・祝】

会場：山形ドキュメンタリーフィルムライブラリー

主催：一般財団法人山形コンベンションビューロー

認定NPO法人 山形国際ドキュメンタリー映画祭

参加者：9名(未就学児3名、小学生2名、高校生3名、大人1名)

保護者の見学もあり

※当日の記録映像はYIDFF Webサイトに掲載

■フィルムライブラリーの探検と、16mmフィルムのダイレクト・ペイントによる映画づくりを行なった。参加者のフィルムを繋いで上映。簡易に制作したフィルムのルーパー（エンドレス映写機能）つきの16mm映写機2台を用い、2つの映像を重ね、新たな映像が生まれた。また、自分の影を重ねることで映像に入り込むことも試みたが、もう少し工夫が必要と感じた。定員には満たなかったが、控えめな子が積極的に動いてくれたり、未就学児も物怖じせず参加してくれたり、少人数の良いところもあった。高校生（ドキュ山ユース）の参加も違和感なく、本人たちも楽しんでいただけたようだった。



ライブラリー探検！



フィルムカメラを覗いてみよう



フィルムにえをかこう！



たくさん映画で遊びました

「ドキュ山ユース」の活動

■青少年のボランティア意識の促進を目的とする山形県の補助金「やまがた社会貢献基金」を獲得できたことにより、これまで懸案とされてきた若年層の映画祭参加の少なさを改善する具体的な事業を行うことができた。「国際映画祭の作り方」と題したワークショップで高校生参加者を募集し、さらに映画祭本番でのボランティア参加を促すために、県内各高校を回り、PRを行った。その結果、64人の高校生がボランティアに参加し、会場係はもちろん、司会進行の大役を果たす生徒も複数おり、映画祭観客からも大変な好評を得た。映画祭終了後、ボランティア参加した生徒たちに「高校生による自主上映企画」への参加を呼びかけたところ、7名が名乗りをあげ、彼らにより「ドキュ山ユース」が結成され、見事自主上映会を成功に導いた。この活動は一過性のものではなく、今後も継続していく予定である。

高校生・大学生のための国際映画祭の作り方ワークショップ

開催日：2017年8月12日【土】 会場：霞城セントラル23F高度情報会議室



【上映作品】『純粹なるもの』

【講師・ファシリテーター】酒井耕（映画監督）、瀬尾夏美（画家・作家）

【参加校】山形東高校、山形学院高校、東桜学館高校、米沢東高校、山形大学 人数：9名

□映画祭作品『純粹なるもの』鑑賞後、作品内容についてフリートーク、ドキュメンタリー映画から自身が受け取ったものを言葉にした。その後、「山形」「国際」「ドキュメンタリー映画（祭）」の3つのテーマに分かれてグループ討論を行い、それぞれのイメージを言葉として集約し、発表。彼ら彼女らの言葉で「山形国際ドキュメンタリー映画祭」の姿を捉えた。

山形国際ドキュメンタリー映画祭2017
YAMAGATA International Documentary Film Festival



まずは映画をみてみよう



映画の感想を自由に発言



グループごとに討議



話し合ったことを発表しました

ドキュメンタリー映画を体感してみませんか？～高校生による上映会～

開催日：2018年2月12日【月・祝】 会場：山形市民会館小ホール



【上映作品】『あまねき調べ』『乱世備忘—僕らの雨傘運動』

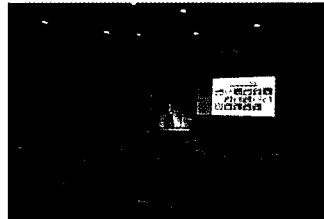
【ゲスト】チャン・ジウン（映画監督、香港）

【入場者数】185名

□映画祭2017のコンペ部門で上映された作品から同世代に見せたい作品を選び出し、企画立案、チラシ制作、広報宣伝、当日会場運営、パネルディスカッション仕切り、等の上映会に関わる全ての作業をユース自らの発案と行動で作りを上げた。事前に手紙を書き、チャン・ジウン監督に来形をオファー、打ち合わせ等を行なった。また「ユネスコ創造都市ネットワーク認定」についての周知もしたいということで特別にプレゼンの時間なども設けた。事務局はサポートに徹した。



ドキュ山ユースの自己紹介



創造都市についてのプレゼン



監督とのパネルディスカッション



観客の方も入って記念撮影

職場体験受け入れ

■山形市内の中学校からの要請を受け、映画祭事務局にて職場体験を受け入れた。若年層に対する映画祭の広報も兼ねる。2006年から継続して定期的に受け入れを行なっている。

山形市立第三中学校 (3名)

受入日：2017年5月9日～11日

体験内容：映写体験、チラシ制作、資料印刷など



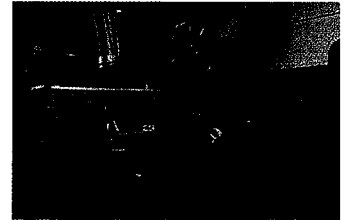
庶務作業の補助



上映会の補助



ライブラリーについて聞いてみよう



映写機も触ってみました

インターンシップ生受け入れ

■山形大学、東北公益文科大学からインターンシップ生を受け入れ、事務局の日常的な事務作業、イベント運営補助等のサポート業務に任じ、必要なものについてはその実績評価を大学に報告した。映画祭開催年である本年は、実習終了後もボランティアとして映画祭の各現場で活動した。また今回はオハイオ大学からもカンボジア人のインターンを受け入れた。

- ・山形大学 工学部3年：1名、地域教育文化学部3年：1名
期間：2017年8月21日～25日 期間外：ワークショップ、映画祭ボランティア参加
主な業務：広報活動（チラシ制作、ポスター掲示）、上映会運営補助、事務作業全般
- ・東北公益文科大学 公益学部1年：1名
期間：2018年2月19日～23日 期間外：上映会参加
主な業務：広報活動（映画祭ブログ記事執筆）、資料印刷、事務作業全般
- ・オハイオ大学 Communication and Development Studies MAコース：1名
期間：2017年6月26日～8月25日
主な業務：映像制作（YIDFF 2017 トレーラー）、広報活動（ラジオ出演）

[4] フィルムライブラリー活用・作品貸出事業

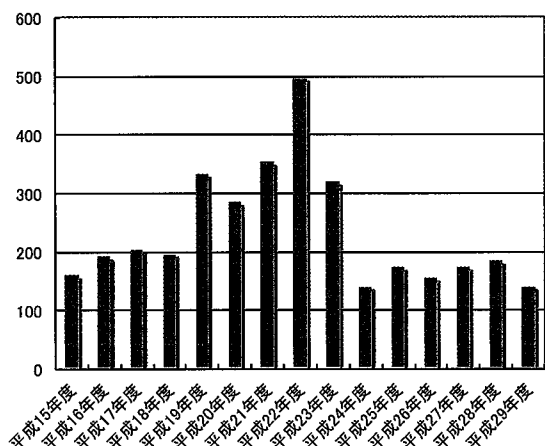
(1) ビデオブースにおける所蔵作品の無料鑑賞サービス

■ビデオブースにおける所蔵作品の無料鑑賞サービスを市民に提供した。本年度はドイツ、オーストラリア、イギリスから外国人研究者の利用があった。

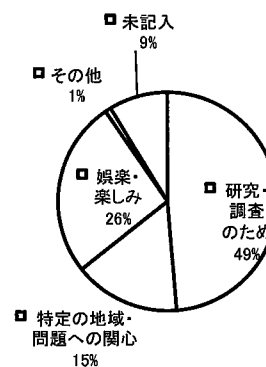
年間利用者数 **139人** (前年比76.0%)

	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度
利用者数	159	190	202	195	332	233	352	496
	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	
利用者数	318	139	172	154	173	183	139	

ビデオブース利用者



【2017利用目的別集計グラフ】



(2) 作品貸出リスト普及と貸出推進

◇県内での作品紹介・普及活動

■県内の各団体を直接訪問し、貸出可能な収蔵作品リストを通じ、上映促進を図った。授業に活用してもらえるよう山形大学で営業活動を行った結果、『S21 クメールルージュの虐殺者たち』が選定され、人文社会科学部の授業の中で上映された。大学機関での利活用は今後も期待されるので、重点的に作品紹介に取り組んでいく予定である。

◇全国の作品貸出拡大

■公式ウェブサイトなどを通じ、日本国内及び海外へ作品貸出を呼びかけた。

年間貸出件数 14件 (前年比70%)

年間貸出作品数 25作品 (前年比73.5%)

貸出料総計 739,500円 (前年比71.4%)

※うち正会員割引2件、複数貸出による割引2件

貸出先：北海道、山形、宮城、長野、東京、岐阜、京都、兵庫

自主上映、映画祭、美術展、大学、高校同窓会等

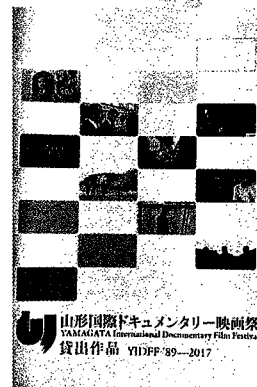
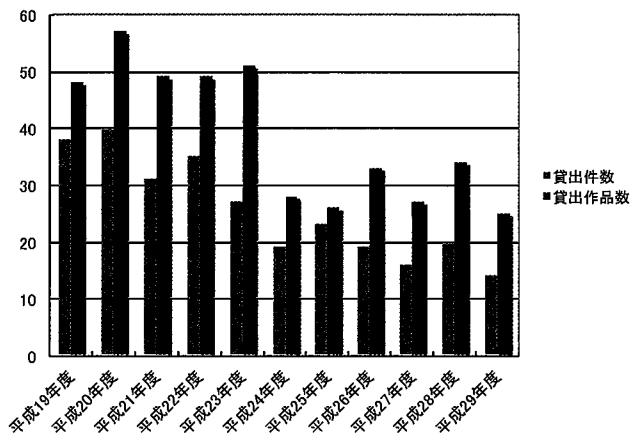
非商業上映権を有しているドキュメンタリー映画の貸出や上映などによる収益の半分を制作者へ還元

【還元：17件】 (監督個人及び製作・配給会社/複数作品について権利を保持しているケースがあり、作品数と還元件数は一致しない)

■貸出作品についての情報をウェブサイトに掲載し、必要に応じて作品貸出リストを郵送した。YIDFF 2017 で上映し、合意を得た作品を所蔵し、新規作品を含む貸出作品の冊子を作成した。

	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
貸出件数	38	40	31	35	27	19	23
貸出作品数	48	57	49	49	51	28	26
	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度			
貸出件数	19	16	20	14			
貸出作品数	33	27	34	25			

ライブラリー作品年間貸出件数



作品貸出リスト【2018年版】

(3) 応募作品の整理

■「山形国際ドキュメンタリー映画祭 2017」インターナショナル・コンペティションおよびアジア千波万波に応募された1,791本について、ナンバリングを行い、作品タイトル、監督名、国名、上映尺等情報を記載の上、分類ののちDVDとして収蔵庫に収納した。また次年度よりビデオブース視聴を可能とするため、準備を行なった。

(4) 古い山形の映像の発掘

■8mmフィルム、および16mmフィルムによる日常の記録をおさめた山形の古い映像の探索を行なった。初孫酒造から借り受けていた8mmの中からグリーン・ハウスの映像を探し出し、テレシネしたものを『世界一と言われた映画館 酒田グリーン・ハウス証言集』に挿入し、本編映像として「やまがたと映画」特集の中で上映した。

(5) 所蔵作品に基づく研究活動とサポート

山形大学人文社会科学部による学術的研究の補助

■山形大学人文社会科学部の今村真央准教授を中心とした研究チームによる、東南アジア作品についての研究についてサポートを行った。また映画祭期間中には、山形大学との共催によって「フィリピン映画の現在：第3期黄金時代はいかにして到来したか」と題したパネルディスカッションを開催した。

【フィリピン映画の現在：第3期黄金時代はいかにして到来したか】

日程：10月6日【金】 15:30 - 17:30

会場：山形美術館3F

内容：フィリピン、日本、アメリカの研究者、映画監督、キュレーターを講師に、フィリピンの映画、社会を語り尽くす企画。

パネリスト：ロックスリー（アニメーター、漫画家、映像作家）

ジョン・ジャンヴィト（映画監督）

ホープ・サバンパン＝ユー（サンカルロス大学）

清水展（京都大学）

[5] ネットワーク構築事業

(1) ドキュメンタリー作品の上映推進

■年間を通して、県内各地で行われたドキュメンタリー作品上映に関わり、市民・県民がドキュメンタリー映画に親しむ機会の創出を促した。

開催日	上映作品	開催場所
2017年7月29日～8月4日	映画『抗い』上映とトーク	フォーラム山形
2017年8月7日	『まちのひかり』『君に届けば～まちのひかり』上映とトーク	浴浴センターまどか
2017年8月12日	『山形鑄物』『山形打刃物』上映	川西町フレンドリープラザ
2017年8月26日～9月1日	『無音の叫び声』上映と澤地久枝トーク	フォーラム山形
2017年10月28日	『世界一と言われた映画館』関係者試写会	グリーンベイ
2017年10月29日	『世界一と言われた映画館』上映	酒田港座
2017年11月27日～	『いただきます』上映	フォーラム山形
2017年11月27日	『ふたりの桃源郷』上映	白鷹町パワーセンター
2017年12月3日	『標的の島 風かたか』上映	長井学習プラザ
2018年2月18日	『姫と王子たち』上映	なごみの里
2018年2月18日	『いただきます』上映	新庄市民プラザ
2018年3月17日～	『いただきます』アンコール上映	フォーラム山形

里山上映会

開催日	上映作品	開催場所
2017年4月23日	『ふたりの桃源郷』上映	はらっぱ里山保育園
2017年5月28日	『夢は牛のお医者さん』上映	はらっぱ里山保育園
2017年7月2日	『人生フルーツ』上映	はらっぱ里山保育園
2017年8月27日	『極北のナヌーク』バイオリン生演奏付き	はらっぱ里山保育園
2017年9月3日	『里山っ子たち』上映	はらっぱ里山保育園

(2) 山形ドキュメンタリーフィルムライブラリー及び収蔵作品についての情報発信

■YIDFF 2017 インターナショナル・コンペティション上映作品より、『カーキ色の記憶』『ドンキー・ホーテ』『自我との奇妙な恋』『孤独な存在』『ニンホアの家』『航跡(スービック海軍基地)』『カラブリア』、アジア千波万波の15作品、ともにあるカンボジア作品の2作品、やまがたと映画1作品について、本法人より国内非営利上映向けに貸出を行う旨、各権利者と合意書を取り交わした。これに伴い、ウェブ版(HTML版、pdf版)及び冊子版の貸出作品リストを作成。冊子版は500部作成し、国内の上映関連施設、機関、大学等に配布する。

※関連事項は [4] フィルムライブラリー活用・作品貸出事業の項目を参照。

(3) 映画祭ネットワークの構築

■国内外の映画祭とのネットワークを築くべく、各種の活動を行なった。

【イスラエル文芸視察団への参加（在日イスラエル大使館主催）】

日程：2018年2月10日～16日（7日間）

□畑事務局員が視察団の一員として参加。当地外務省の引率でイスラエルの出版関係者、小説家、映画関係者、ホロコースト生存者（語り部）などの方々とお会いし、懇談した。イスラエル・フィルム・ファンドのカトリエル・シホリ氏や、ドキュメンタリー映画祭DocAvivスタッフらとも交流した。

【ベルリン国際映画祭（ドイツ）】

日程：2018年2月20日～24日（5日間）【招聘】

□「311ドキュメンタリーフィルムアーカイブ」責任者である畑事務局員が、フォーラム・エクスパンデッド部門主催の国際アーカイブシンポジウム「Think Film No.6 Archive Constellations」のパネリストとして招聘された。参加した震災に関するパネルで、2017年に発生したメキシコ大地震により建物・設備が壊滅的な打撃を受けたメキシコの娯楽映画アーカイブの代表とともに、震災という予見の難しい大災害と映像アーカイブのあり方・役割について議論した。また他のパネルの世界のさまざまな小規模アーカイブの代表者らと交流し、ネットワーク作りを行った。

[6] 「311ドキュメンタリーフィルム・アーカイブ」事業

■平成26年11月に開設した、東日本大震災に関わる記録映画を収集・保存する「311ドキュメンタリーフィルム・アーカイブ」（データベース：<http://www.yidff311docs.jp>）は、現在平成30年3月末で98作品が登録され、未登録作品について引き続き順次アプローチ中である。本アーカイブに関連した映画祭主催の上映活動としては、以下のイベントを行なった。

□本アーカイブに関連した映画祭主催の上映活動としては、以下のイベントを行なった。

@ 山形国際ドキュメンタリー映画祭 2017

■山形国際ドキュメンタリー映画祭2017東日本大震災特集プログラム「ともにある Cinema with Us 2017」では、特別企画として、「アーカイブをめぐる対話」という上映・ディスカッションイベントを行なった（於：山形美術館）。カンボジア・プノンペンにあるボパナ視聴覚リソースセンターとの共催で、センターの現ディレクター、フィリップ・チア氏にも来形いただき、ボパナセンターの映像発掘・修復・上映活動について紹介いただいた。センター製作の2本『レッド・ウェディング』『どこに行く』も日本語字幕付きで上映。これら2本の上映素材については、ボパナセンターとの間で非営利上映貸出契約を結び、山形ドキュメンタリーフィルムライブラリー収蔵となった。

助成：公益財団法人カメイ社会教育振興財団（仙台市）、平成29年度公益財団法人企業メセナ協議会「東日本大震災 芸術・文化による復興支援ファンド」（GBFund）、平成29年度損保ジャパン日本興亜「SOMPOアート・ファンド」（企業メセナ協議会 2021 Arts Fund）

@ 金曜上映会

■毎月開催している「金曜上映会」の枠で、3月24日に震災関連作品上映会を行なった（於：山形ドキュメンタリーフィルムライブラリー試写室）。上映作品は東京藝術大学製作、三好大輔監督の『よみがえる大船渡』『よみがえる浪江町』の2本に、監督が事業展開している「地域映画」プロジェクトの1作品『よみがえる安曇野』も参考上映した。当日は被災地出身の方も含む25人ほどの方が参加。集まった8ミリフィルムのホームムービーのうち被災しヘッドロで汚れたフィルムの洗浄が非常に難しかったこと、そしてそのように救出され、デジタル映像に再編集された家族や地域の思い出を上映し、地域の人々と記憶を思い起こしながら語り合うことの重要性について、監督にお話いただいた。被災地だけでなくどの地域にも存在し埋もれているであろうこうしたホームムービーの、家族の視点の暖かさ、皆で見返すという経験がもたらす記憶・感性の活性化の効用や重要性が、参加者全員に共有された。

【7】映像文化創造都市推進活動

■山形市のユネスコ映像文化創造都市加盟に向けて、山形市文化振興課と共に会議や講演会への参加・交流・人脈構築、および創造都市への理解を深める活動を行なった。

【映像文化創造都市に関する会議への参加】

- (1) 2017年4月12日 創造都市申請部会に高橋事務局長が参加 山形市役所
- (2) 4月18日 創造都市申請部会に高橋事務局長が参加 山形市役所
- (3) 4月26日 山形市創造都市推進協議会総会に高橋事務局長が参加 会場：山形商工会議所
- (4) 6月14日 (山形市が映画部門でユネスコ創造都市ネットワーク加盟を申請)
- (5) 6月29日 創造都市申請部会に高橋事務局長が参加 山形市役所
- (6) 10月31日 (山形市が映画部門でユネスコ創造都市ネットワーク加盟認定獲得)
- (7) 11月1日 ユネスコ創造都市認定記者会見に大久保義彦理事長が参加
- (8) 11月9日 第一小学校リノベーション事業に係るディスカッションに加藤副理事長が参加
- (9) 12月4日 ユネスコ創造都市加盟申請部会に高橋事務局長が参加 山形市役所
- (10) 2018年2月23日 ユネスコ創造都市ネットワーク認定記念祝賀会に参加

【ユネスコ創造都市国際ネットワーク申請と結果について】

□YIDFF 2013の閉会宣言以来、山形市の映画分野におけるユネスコ創造都市国際ネットワーク加盟をひとつの目標とし山形市等と協力し様々な活動を行なってきた。2015年度、当法人は国際ネットワーク加盟の申請書類作成や事業立案などの協力を行い、当映画祭の実績や地元の多様な映像文化活動の歴史をまとめ、次の時代の映像文化による地域創造のビジョン作りを進めた。平成27年7月15日、山形市は加盟申請を行なったが、12月11日の結果発表では、加盟は見送られた。翌年6月、申請団体の長である山形市長がユネスコ本部を訪問し創造都市ネットワーク加盟の意思と熱意を伝えるとともに、申請書の改良点などについても聞き取り調査を行った。平成29年度の申請を目指し、映画分野関係者以外に山形交響楽団、山形美術館、大学関係者等を交えてユネスコ創造都市加盟申請部会を再編成し、様々な山形の文化活動やその魅力、積極的に国際的な貢献を果たす意思やビジョン・事業案等を新しい申請書に反映させるべく、幅広い議論を積み重ねてきた。平成29年6月16日、改めて加盟申請を行い、YIDFF 2017が終了して間もない10月31日未明、山形市の加盟認定が発表された。これで、山形は世界の13の映画創造都市として位置付けられ、日本では初の映画部門でのユネスコ創造都市国際ネットワーク加盟となった。今後、山形市はこれまでとはチャンネルの異なる国際的な文化交流の機会を与えられるとともに、積極的に自ら創出してゆくことも必要となる。当映画祭もその活動の中核を担うことで、地域や世界に新しい関係性を築いてゆく。これからの正念場である。

◇やまがた市民映画学校の開催

○「第1回 懐かしい山形とシネマ通り」

上映作品：『四季のたより』ほか、山形市広報課制作16mmフィルム

会場：郁文堂書店

日程：6月23日 入場者数：49人

○「第2回 懐かしい山形とシネマ通り」

上映作品：『私たちの施設』ほか、山形市広報課制作16mmフィルム

会場：郁文堂書店

日程：8月18日 入場者数：22人

□昭和30年代の山形の街並みを捉えた16mmフィルムの上映と当時を知る人々のぎっくばらんなトークを通して、山形のまちづくりを多角的に体感する映画上映会を行ない、郷土愛を醸成した。



懐かし映像に蘇る思い出



若者の目線で捉えた昔のやまがた



山形のこれからの街づくりについて



貴重な高校生の意見

◇子ども映画教室の開催

○「第8回 子どもの映画教室 手がきフィルムで映画をつくろう」

内容：ダイレクトペイントによるフィルム映像の制作

会場：山形ドキュメンタリーフィルムライブラリー

日程：3月21日

参加者数：9人

[8] 映像（撮影・上映）素材デジタル化に伴う研究活動への協力

■東北芸術工科大学が日本学術振興会による科学研究費助成に採択された「小規模映画における保存と修復及びアーカイブに関する研究」について、研究調査の支援を行なった。主には映画祭開催会場での上映と研究発表の補助、ディスカッションイベントでの映像機材及び映写業務提供などである。また保存に関しては、当映画祭ライブラリー機能の再定義も研究内容と関連している。研究プロジェクトは3ヶ年計画であり、平成29年度は初年度にあたる。今後も継続して協力していく予定である。

「小規模映画における保存と修復及びアーカイブに関する研究@山形国際ドキュメンタリー映画祭 2017

「イメージの時空間—映像アーカイブの多角的展開にむけて」

会場：山形美術館 展示室5

日程：10月9日

□山形美術館を会場にして行なわれたシンポジウムについて会場と機材提供を行った。

長野千秋監督「O氏シリーズ」のデジタル素材のライブラリー保管

作品：『O氏の肖像』『O氏の死者の書』『O氏の曼陀羅』（いずれも長野千秋監督）

形式：ProRes422HQ 高精細度デジタル素材【HDD格納】

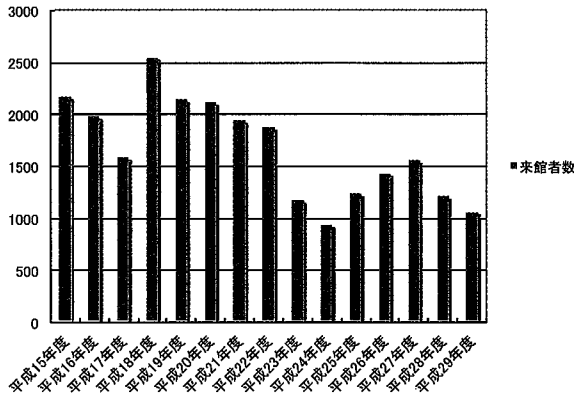
□長野千秋監督による大野一雄の舞踏映画「O氏シリーズ」をデジタル化し、そのデータを山形ドキュメンタリーフィルムライブラリーに保管すべく、利用規約と合意書を作成し、作品を管理する大野一雄研究所との間で調印を行い、現物を受領した。現在、ライブラリー収蔵庫に保管され、次回YIDFF 2019の東北芸術工科大学企画にてお披露目される予定である。

[9] 山形ドキュメンタリー・フィルムライブラリー管理業務

■財団法人山形コンベンションビューローより、山形ビッグウイング3Fの山形ドキュメンタリー・フィルムライブラリーの管理業務を受託し、委託業務を遂行した。

館内利用者 1,055人 (前年比87.2%)

ライブラリー来館者数



およそ10,000本が誰でも無料で鑑賞できる

	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度
来館者数	2166	1972	1530	2542	2136	2110	1933	1871
	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	
来館者数	1172	933	1231	1425	1552	1210	1055	

山形ドキュメンタリーフィルムライブラリー施設見学

■山形市が主催する施設見学会の受け入れを行ない、収蔵作品（山形市所蔵フィルム）を上映した。また、3月の「子どもの映画教室」において施設見学の時間を設け、参加者や保護者に施設を案内した。

□7月6日受け入れ 35人

□11月1日受け入れ 12人

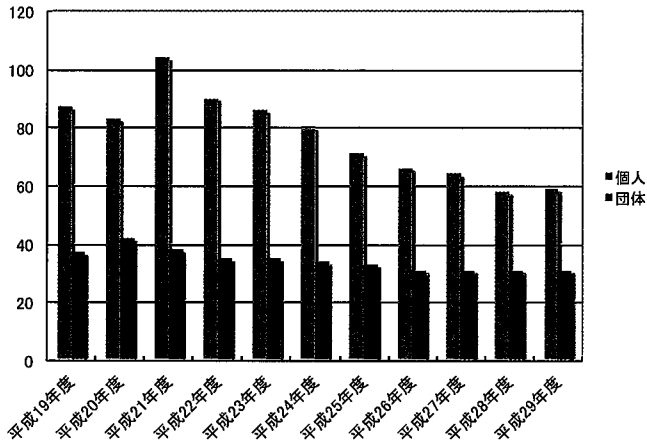
□11月17日受け入れ 19人

[10] 正会員・賛助会員の拡大

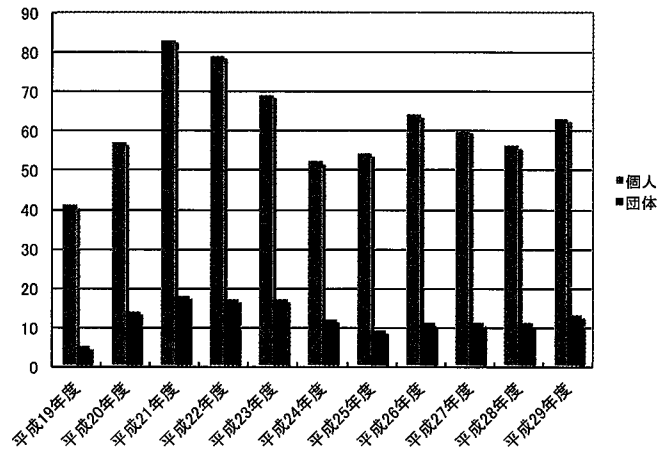
正会員数 90件 [団体31・個人59] (前年比101%)

賛助会員数 76件 [団体13・個人63] (前年比113%)

正会員数



賛助会員数



正会員	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
個人	37	33	104	90	86	30	71
団体	37	42	33	35	35	34	33
	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度			
個人	66	64	59	59			
団体	31	31	31	31			
賛助会員	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
個人	41	57	83	79	69	52	54
団体	5	14	13	17	17	12	9
	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度			
個人	64	60	56	63			
団体	11	11	11	13			

(1) 正会員・賛助会員加入呼びかけリーフレット普及

■正会員・賛助会員加入呼びかけリーフレットを作成し、イベント時の一般市民への配布や映画祭期間中の観客への配布・会場設置などを行ない、会員拡大を図った。

(2) 市内・県内における直接的入会の呼びかけ

■映画祭の広報活動・チケット販売依頼や企業協賛依頼などと兼ね合わせ、山形県内の各地で対面での会員勧誘を行なった。



会員募集リーフレット

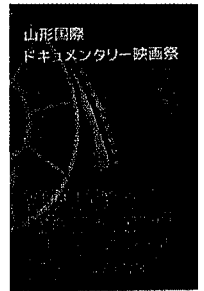
(3) 会報の発行

■会報については、年度当初は一回の発行を計画していたが、次年度において山形国際ドキュメンタリー映画祭 2017開催を子細に報告する会員及び一般向け冊子発行に注力した方がより効率的であると判断し、見送ることにした。

[11] 寄付募集活動

寄付金総額 866,294円

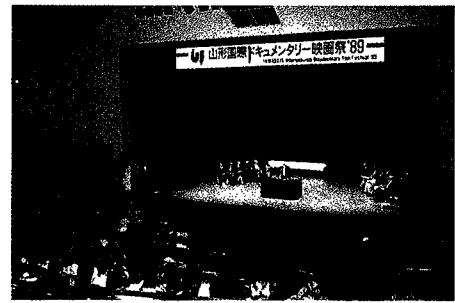
■今年度は認定NPO法人の更新のための寄付者獲得最終年度にあたっていたため、これまで以上に情報の拡散に努めた。その結果、目標数字に到達した。この流れを途絶えさせることなく、次年度でも寄付金獲得のための具体的なアクションを行なっていき、当映画祭への理解者と支援者を増やしていけるようPRのための工夫を行なっていく所存である。



寄付募集リーフレット

付録

1986	
08-22	市制100周年記念事業計画策定委員会設置
1987	
03-02	同委員会より100周年事業として本映画祭が提案される
05-06	本映画祭の実施決定
1988	
05-12	第一回部会 実施要項決定
06-21	第二回部会 日程決定
08-25	第三回部会
11-21	第四回部会
1989	
01-07	昭和天皇崩御
01-08	平成に改元
02-22	第五回部会 ポスター、映画祭を成功させる会
04-01	消費税施行3%
04-20	第六回部会 予備審査について
06-04	中国天安門事件勃発
07-13	ネットワーク結成準備会
07-14	第七回部会 ノミネート作品 第一回実行委員会
07-29,30	映画祭を成功させる会・ネットワーク総会
	同日より映画祭を記録する映画撮影開始（『映画の都』）
07-31	第二回実行委員会 チケット、券売について
10-10	山形国際ドキュメンタリー映画祭 '89 開幕
	山形経済同友会第一回明るい山形MVP賞受賞
11-11	ベルリンの壁崩壊
12-20	米軍パナマ侵攻
1990	
05-02	実行委員会設立総会
06-19	第一回実行委員会
08-02	イラク軍クウェート侵攻
09-13	第二回実行委員会
10-03	東西ドイツ統一
1991	
01-17	多国籍軍イラク空爆開始
01-25	第三回実行委員会
03-25	総会
07-16	第四回実行委員会
08-23	第五回実行委員会
09-22	クオアチア紛争
10-07	山形国際ドキュメンタリー映画祭 '91 開幕
12-25	ソ連崩壊
12-27	第六回実行委員会



YIDFF '89 授賞式



YIDFF '91 (右から) 佐藤真監督、小林茂カメラマン、評論家・山根貞雄さん

1992	
02-07	小川紳介監督逝去
04-07	ボスニア=ヘルツェゴビナ紛争始まる
07-01	山形新幹線開業
07-16	第一回実行委員会
09-01	コンペ募集開始
10-23	天皇初の中国訪問
1993	
04-15	コンペ予備選考開始
05-10	総会
05-29	北朝鮮がノドン1号試射
06-09	皇太子結婚
06-19	山形・東京合同予備選考会議
08-09	細川内閣成立、55年体制の崩壊
10-05	山形国際ドキュメンタリー映画祭'93 開幕
11-01	欧州連合成立
1994	
05-26	総会
06-27	オウム真理教による松本サリン事件発生
07-08	北朝鮮金日成主席死去
08-29	ロシア軍、旧東ドイツとバルト諸国から撤退
12-16	第一回実行委員会
1995	
01-17	阪神・淡路大震災
03-13	第二回実行委員会
03-20	オウム真理教による地下鉄サリン事件発生
06-05	総会
07-21	第三回実行委員会
09-04	第四回実行委員会
10-03	山形国際ドキュメンタリー映画祭'95 開幕
12-21	第五回実行委員会
1996	
01-11	橋本龍太郎内閣発足
01-17	今後の方向性と組織の見直しのために検討委員会発足
02-01	第二回検討委員会（現況と展望）
02-15	第三回検討委員会（専門部会、今年の目標）
03-01	第四回検討委員会（東京事務局合同）
08-23	第五回検討委員会（整理、フィルムライブラリーについて）
04-04	第六回検討委員会（組織、友の会、イベントなど）
05-15	第七回検討委員会（組織、ライブラリー、県内巡回上映）
05-28	第八回検討委員会（映画部会、フェスティバル部会）
07-05	世界初のクローン羊「ドリー」誕生



YIDFF '93 先住民シアター



YIDFF '95 中央公民館6Fロビー



YIDFF '95 中央公民館4Fゴザ会場

08-12	第一回実行委員会
09-06	第一回金曜上映会『1000年刻みの日時計』
12-16	第二回実行委員会
1997	
02-20	中国鄧小平死去
03-31	第三回実行委員会
04-22	ペルー日本大使公邸占拠事件
06-07	コンペ最終選考会議
06-10	総会
07-01	香港返還
08-31	ダイアナ英皇太子妃、パリで事故死
09-02	第四回実行委員会、市民賞審査員公募
10-06	山形国際ドキュメンタリー映画祭'97開幕 『マザー・タオ』フィルム・カット事件 田中哲実行委員長声明文発表
10-08	金正日、朝鮮労働党総書記に就任
12-19	第五回実行委員会
1998	
02-01	日本映画ベンクラブ賞受賞
02-07	長野オリンピック開幕
04-01	日本版金融ビッグバンスタート
05-05	インドネシアで暴動発生
08-31	北朝鮮テポドン試射
12-01	NPO法施行
1999	
01-01	EU単一通貨ユーロ導入
09-21	台湾大地震発生
10-19	山形国際ドキュメンタリー映画祭'99開幕
12-04	山形新幹線、新庄へ延伸
2000	
05-07	プーチンがロシア大統領に就任
06-13	朝鮮半島分断後初（55年ぶり）南北首脳会談
10-06	ユーゴスラビア崩壊
2001	
01-06	日本、中央省庁再編
01-20	ジョージ・W・ブッシュ、アメリカ大統領に就任
04-26	小泉内閣成立
09-11	アメリカ同時多発テロ
10-03	山形国際ドキュメンタリー映画祭2001開幕 9.11の影響で来日を取りやめるゲストがでる
10-07	アメリカ軍によるアフガニスタン侵攻開始
11-30	山路ふみ子賞受賞
2002	
06-04	計画概要決定、ポスター・デザイン公募開始
09-01	コンペ、アジア千波万波作品募集開始



YIDFF '97 受賞者記者会見



YIDFF '99 ミューズ『新しい神様』



YIDFF 2001 香味庵クラブ

09-17	小泉訪朝により北朝鮮が日本人拉致を認める
2003	
01-10	北朝鮮、核拡散防止条約脱退宣言
03-01	中国で新型肺炎SARS大流行
03-31	コンペ作品募集締切
05-31	アジア千波万波応募募集締切
06-12	コンペ上映作品決定
07-10	市民ボランティア募集開始
07-18	アジア千波万波上映作品決定
10-10	山形国際ドキュメンタリー映画祭 2003 開幕 関連プログラムとして第18回国民文化祭・やまがた2003 ドキュメンタリー映画フェスティバル日本大展望
2004	
01-19	自衛隊イラク派遣開始
06-01	ポスターデザイン公募締切
09-01	コンペ、アジア千波万波作品募集開始
11-11	パレスティナ解放機構アラファト議長死去
12-26	スマトラ沖地震発生、15万人以上が死亡
2005	
01-01	河北文化賞受賞
04-01	映画祭の長期的展望審議のための常任委員会発足
06-01	コンペ作品決定
07-01	アジア千波万波作品決定
08-01	上映全作品決定
10-01	インドネシア、バリ島で同時爆弾テロ発生
10-07	山形国際ドキュメンタリー映画祭 2005 開幕
2006	
01-16	常任委員会にて映画祭の山形市からの独立を提案
01-24	独立についての検討委員会設置
2-25	世界人口65億人突破
04-01	任意団体として独立、NPO法人化に向け準備開始
05-20	イランで3年ぶりに正式政府発足
09-19	タイで軍事クーデター勃発
10-01	国際交流基金奨励賞受賞
2007	
04-01	特定非営利活動法人山形国際ドキュメンタリー映画祭発足
04-10	インターナショナル・コンペティション第2次応募締切
05-31	アジア千波万波応募募集締切
08-01	サントリー地域文化賞受賞
10-04	山形国際ドキュメンタリー映画祭 2007 開幕
2008	
03-21	NHK東北ふるさと賞受賞
05-25	総会
09-01	コンペ、アジア両部門応募受付開始



YIDFF 2003 蔵オビハチ6面マルチ上映



YIDFF 2005 パーティーにて県産酒紹介

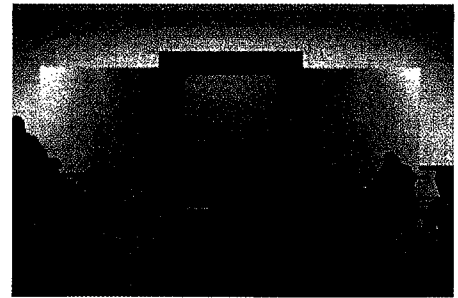


YIDFF 2007 小学生とゲストとの交流

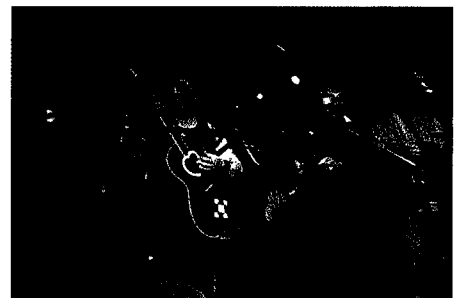
09-20	ドキュメンタリー・ドリームショー山形in東京2008
11-29	イベント「李香蘭／山口淑子」
12-15	インターナショナル・コンペティション第1次応募締切
2009	
04-10	インターナショナル・コンペティション第2次応募締切
05-23	総会
05-31	アジア千波万波応募締切
06-20	イベント「ゴジラを撮った男 本多猪四郎特集」
06-23	コンペ上映作品発表記者会見
08-07	アジア上映作品発表記者会見
10-08	山形国際ドキュメンタリー映画祭 2009 開幕
2010	
05-22	総会
09-01	コンペ、アジア両部門応募受付開始
09-18	ドキュメンタリー・ドリームショー山形in東京2010
10-30	イベント「映画作家ベドロ・コスタ」
12-15	インターナショナル・コンペティション第1次応募締切
2011	
03-11	東日本大震災発生
04-10	インターナショナル・コンペティション第2次応募締切
05-21	総会
05-31	アジア千波万波応募締切
06-20	コンペ上映作品発表記者会見
06-25	イベント「井上ひさしが愛した女優 高峰秀子」
07-09	イベント「アビチャップン・ウィーラセタクンの世界」
07-26	アジア上映作品発表記者会見
07-26	第29回川喜多賞受賞
08-06	イベント「昭和が惚れた女優たち」
10-06	山形国際ドキュメンタリー映画祭 2011 開幕
2012	
05-19	総会
09-01	コンペ、アジア両部門応募受付開始
08-18	「ドキュメンタリー・ドリームショー山形in東京2012」
12-15	インターナショナル・コンペティション第1次応募締切
2013	
02-14	第3回地域再生大賞・準大賞受賞
03-01	「ともにある Cinema with Us 忘れないために」開催
04-10	インターナショナル・コンペティション第2次応募締切
05-18	総会
05-31	アジア千波万波応募締切
06-19	コンペ上映作品発表記者会見
07-27	イベント「映画作家 小川紳介 山形を獲る」
07-29	アジア上映作品発表記者会見



YIDFF 2009 さよならミュージズ



YIDFF 2011 美術館おぼけテレビ



YIDFF 2011 キューバライブ

10-01	「来てけらっしゃい」東京記者会見
10-08	「認定NPO法人」に認定
10-10	山形国際ドキュメンタリー映画祭 2013 開幕
2014	
05-22	総会
09-01	コンペ、アジア両部門応募受付開始
09-05	イベント「怪異の表象」
09-13	イベント「喜劇大行進」
10-03	イベント「山の恵みの映画たち」
11-15	ドキュメンタリー・ドリームショー山形in東京2014
12-15	インターナショナル・コンペティション第1次応募締切
2015	
04-15	インターナショナル・コンペティション第2次応募締切
05-15	アジア千波万波応募締切
05-23	総会
06-24	コンペ上映作品発表記者会見
08-08	イベント「市川崑が見つめた戦後日本」
10-08	山形国際ドキュメンタリー映画祭 2015 開幕
2016	
05-21	総会
09-01	コンペ、アジア両部門応募受付開始
09-09	イベント「山の恵みの映画たち 2016」
09-17	ドキュメンタリー・ドリームショー山形in東京2016
11-05	イベント「わたしのドキュやま大芋煮会」
12-15	インターナショナル・コンペティション第1次応募締切
2017	
02-25	イベント「映画『SHARING』の挑戦」
04-15	インターナショナル・コンペティション第2次応募締切
05-15	アジア千波万波応募締切
05-20	総会
06-29	コンペ上映作品発表記者会見
07-27	アジア千波万波上映作品発表
08-12	イベント「佐藤広一監督作品特集」
10-05	山形国際ドキュメンタリー映画祭 2017 開幕



YIDFF 2013 美術館ディスカッション



YIDFF 2015 さよならパーティー

受賞一覧

受賞	
1989.10	山形経済同友会第一回明るい山形MVP賞
1989	イベント大賞
1998.2	日本映画ペンクラブ賞
2001.11	第25回 山路ふみ子文化賞
2005.1	第54回 河北文化賞
2006.10	国際交流基金国際交流奨励賞・文化芸術交流賞
2007.8	サントリー地域文化賞
2008.3	第25回 NHK東北ふるさと賞
2011.7	第29回 川喜多賞
2012.3	第9回 シネマ夢倶楽部賞
2013.2	第3回 地域再生大賞・準大賞

財務諸表

自 平成 29 年 4 月 1 日
至 平成 30 年 3 月 31 日

認定 NPO 法人 山形国際ドキュメンタリー映画祭
山形県山形市木の実町 175-1

貸借対照表

平成 30 年 3 月 31 日現在

(単位:円)

科 目	金 額		
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	2,240,989		
未収金	16,802,623		
棚卸資産	1,755,996		
立替金	144,755		
流動資産合計		20,944,363	
2. 固定資産			
(1)有形固定資産			
建物	1,064,239		
車両運搬具	1		
什器備品	3		
有形固定資産計	1,064,243		
(2)投資その他の資産			
開催準備特定預金	3,377,717		
投資その他の資産計	3,377,717		
固定資産合計		4,441,960	
資産合計			25,386,323
II 負債の部			
1. 流動負債			
未払金	18,259,913		
前受金	10,000		
預り金	322,290		
流動負債合計		18,592,203	
2. 固定負債			
固定負債合計		0	
負債合計			18,592,203
III 正味財産の部			
前期繰越正味財産		7,655,112	
当期正味財産増減額		△ 860,992	
正味財産合計			6,794,120
負債及び正味財産合計			25,386,323

財産目録

平成30年 3月 31日現在

(単位:円)

科 目	金 額	
I 資産の部		
1. 流動資産		
現金預金		
普通預金 山形銀行 山形市役所支店	1,892,560	
普通預金 山形銀行 山形市役所支店	306,429	
ゆうちょ銀行 振替口座	42,000	
普通預金 荘内銀行 山形営業部	0	
未収金		
芸術文化振興基金	15,750,000	
山形県NPO活動促進補助金	500,000	
フィルムライブラリー受託金(山形コンベンションビューロー)	171,315	
作品貸出料	157,500	
映像文化推進事業	84,240	
正会員・賛助会員会費	40,000	
その他	99,568	
棚卸資産		
出版書籍	1,738,804	
貯蔵品	17,192	
立替金		
新幹線チケット代、海外ゲスト航空券代	144,755	
流動資産合計		20,944,363
2. 固定資産		
(1)有形固定資産		
建物 事務所内装	1,064,239	
車両運搬具 ニッサンAD	1	
什器備品 プロジェクター3台	3	
有形固定資産計	1,064,243	
(2)投資その他の資産		
開催準備特定預金 山形銀行 山形市役所支店	3,377,717	
投資その他の資産計	3,377,717	
固定資産合計		4,441,960
資産合計		25,386,323
II 負債の部		
1. 流動負債		
未払金		
委託費	16,157,280	
社会保険事業主負担分	607,162	
未払法人税等	580,800	
翻訳謝礼	281,670	
フィルム貸出料製作者還元分	160,500	
臨時雇賃金	130,175	
理事日当	83,474	
印刷製本費	58,550	
消耗品費	33,552	
概算補助金返還額	84,386	
その他	82,364	
前受金		
平成30年度正会員会費	10,000	
預り金		
2,3月社会保険自己負担分	322,290	
流動負債合計		18,592,203
負債合計		18,592,203
正味財産		6,794,120

活動計算書

平成 29 年 4 月 1 日 ～ 平成 30 年 3 月 31 日 まで

(単位:円)

科 目	金 額		
I 経常収益			
1. 受取会費			
正会員受取会費	1,530,000		
賛助会員受取会費	1,040,000	2,570,000	
2. 受取寄付金			
受取寄付金	866,294	866,294	
3. 受取助成金等			
山形市補助金	99,915,614		
芸術文化振興基金	15,750,000		
その他助成金	9,724,000	125,389,614	
4. 事業収益			
映画祭事業収益	18,068,944		
映像文化推進事業収益	1,234,192		
上映会・ライブラリー事業収益	757,000	20,060,136	
5. 受託事業収益			
フィルムライブラリー受託事業収益	2,055,780	2,055,780	
経常収益計			150,941,824
II 経常費用			
1. 事業費			
(1) 人件費			
給料手当	19,815,610		
臨時雇賃金	6,589,618		
法定福利費	3,357,429		
福利厚生費	744,647		
人件費計	30,507,304		
(2) その他経費			
会議費	147,473		
旅費交通費	10,097,210		
通信運搬費	1,361,461		
消耗品費	553,602		
印刷製本費	2,363,108		
賃借料	12,131,539		
保険料	154,020		
諸謝礼金	7,709,084		
交際費	64,292		
委託費	75,785,480		
レセプション経費	963,351		
食糧費	786,834		
租税公課	14,300		
その他経費計	112,131,754		
事業費計		142,639,058	
2. 管理費			
(1) 人件費			
給料手当	3,975,000		
法定福利費	715,205		
福利厚生費	128,989		
人件費計	4,819,194		
(2) その他経費			
会議費	9,600		

旅費交通費	549,689		
通信運搬費	314,830		
消耗品費	376,973		
印刷製本費	95,094		
修繕費	62,752		
水道光熱費	333,494		
賃借料	1,162,770		
減価償却費	29,062		
保険料	16,050		
租税公課	671,400		
委託費	562,800		
雑費	160,050		
その他経費計	4,344,564		
管理費計		9,163,758	
経常費用計			151,802,816
当期正味財産増減額			△ 860,992
前期繰越正味財産額			7,655,112
次期繰越正味財産額			6,794,120

財務諸表の注記

1. 重要な会計方針

財務諸表の作成は、NPO法人会計基準(2010年7月20日 2011年11月20日一部改正 NPO法人会計基準協議会)によっています。

- (1) 棚卸資産の評価基準及び評価方法
棚卸資産の評価基準は原価基準により、評価方法は最終仕入原価法によっています。
- (2) 固定資産の減価償却の方法
有形固定資産は、法人税法の規定に基づいて定額法で償却をしています。
無形固定資産は、法人税法の規定に基づいて定額法で償却をしています。
- (3) 消費税等の会計処理
消費税等の会計処理は、税込経理方式によっています。

2. 事業別損益の状況

事業別損益の状況は以下の通りです。

(単位:円)

科目	映画祭事業	映像文化推進事業	上映会・ライブショー事業	フィルム・イン・アーク事業	事業部門計	管理部門	合計
I 経常収益							
1. 受取会費	0	0	0	0	0	2,570,000	2,570,000
2. 受取寄付金	0	0	0	0	0	866,294	866,294
3. 受取助成金	117,287,199	0	2,419,219	0	119,706,418	5,683,196	125,389,614
4. 事業収益	18,068,944	1,234,192	757,000	0	20,060,136	0	20,060,136
5. 受託事業収益	0	0	0	2,055,780	2,055,780	0	2,055,780
経常収益計	135,356,143	1,234,192	3,176,219	2,055,780	141,822,334	9,119,490	150,941,824
II 経常費用							
(1) 人件費							
給料手当	16,477,510	1,362,000	1,976,100	0	19,815,610	3,975,000	23,790,610
臨時雇賃金	5,222,270	0	0	1,367,348	6,589,618	0	6,589,618
法定福利費	2,609,014	197,879	305,987	244,549	3,357,429	715,205	4,072,634
福利厚生費	636,358	41,000	61,500	5,789	744,647	128,989	873,636
人件費計	24,945,152	1,600,879	2,343,587	1,617,686	30,507,304	4,819,194	35,326,498
(2) その他経費							
会議費	147,473	0	0	0	147,473	9,600	157,073
旅費交通費	10,045,690	4,160	47,360	0	10,097,210	549,689	10,646,899
通信運搬費	1,276,205	23,509	61,747	0	1,361,461	314,830	1,676,291
消耗品費	472,007	46,834	0	34,761	553,602	376,973	930,575
印刷製本費	2,239,758	58,550	64,800	0	2,363,108	95,094	2,458,202
修繕費	0	0	0	0	0	62,752	62,752
水道光熱費	0	0	0	0	0	333,494	333,494
賃借料	11,209,735	643,304	278,500	0	12,131,539	1,162,770	13,294,309
保険料	50,000	104,020	0	0	154,020	16,050	170,070
諸謝礼金	7,345,439	0	363,645	0	7,709,084	0	7,709,084
交際費	0	64,292	0	0	64,292	0	64,292
租税公課	0	14,300	0	0	14,300	671,400	685,700
委託費	75,687,387	81,513	16,580	0	75,785,480	562,800	76,348,280
減価償却費	0	0	0	0	0	29,062	29,062
レセプション経費	963,351	0	0	0	963,351	0	963,351
食糧費	786,834	0	0	0	786,834	0	786,834
雑費	0	0	0	0	0	160,050	160,050
その他経費計	110,223,879	1,040,482	832,632	34,761	112,131,754	4,344,564	116,476,318
経常費用計	135,169,031	2,641,361	3,176,219	1,652,447	142,639,058	9,163,758	151,802,816
当期経常増減額	187,112	△ 1,407,169	0	403,333	△ 816,724	△ 44,268	△ 860,992

3. 使途等が制約された寄付等の内訳

使途等が制約された寄付等の内訳は以下の通りです。当法人の正味財産は6,794,120円ですが、そのうち使途が制約された財産はありません。

(単位:円)

内 容	期首残高	当期増加額	当期減少額	期末残高	備 考
映画祭開催に係わる事業	0	124,819,614	124,819,614	0	山形市補助金、芸術文化振興基金ほか
監督派遣に係わる事業	0	324,800	324,800	0	庄内銀行ふるさと創造基金ほか
若年層のボランティア活動推進に係わる事業	0	500,000	500,000	0	山形県NPO活動促進補助金
合 計	0	125,644,414	125,644,414	0	

4. 固定資産の増減内訳

固定資産の増減は以下の通りです。

(単位:円)

科 目	期首取得価額	取得	減少	期末取得価額	減価償却累計額	期末帳簿価額
有形固定資産						
建物	1,383,921	0	0	1,383,921	△ 319,682	1,064,239
車両運搬費	1,230,758	0	0	1,230,758	△ 1,230,757	1
什器備品	1,680,000	0	0	1,680,000	△ 1,679,997	3
合 計	4,294,679	0	0	4,294,679	△ 3,230,436	1,064,243